札幌遠友夜学校創立120周年 記念誌

目次

はじめに	3
創立120周年を記念して~	
21世紀に夜学校理念の実現を	
代表理事 秋山孝二	
2014年創立120周年基調講演	5
記念するには 所をえらぶ 佐藤全弘	
遠友夜学校あれこれ(その1)	7
遠友夜学校の人々 中川厚雄	
創立120周年記念作文・論文コンクール	9
ごあいさつ 審査委員長 三島徳三	
優秀賞論文 須田 洵 ・ 谷口 稔	
札樨遠方夜学校記念館 設計/完成予想図/墓金方法	28





札幌遠友夜学校記念館 完成予想図(外観)

新渡戸稲造記念公園 メモリアルウォールの2つの格言

1. 願わくは、われ太平洋の橋とならん。(場所: A地点)

I wish to be a bridge across the Pacific.

新渡戸稲造

2. With malice toward none, With charity for all. (場所: B地点)

誰に対しても悪意を抱かず、すべての人に慈愛の心を持って。

Abraham Lincoln (エイブラハム・リンカーン)

新渡戸稲造記念公園



はじめに

創立120周年を記念して~21世紀に夜学校理念の実現を

一般社団法人 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 代表理事 **秋山 孝二**

私どもの会は、新渡戸稲造博士生誕150年を記念して、2012(平成24)年12月に、札幌遠友夜学校跡地近くで行われた講演会を契機に設立されました。その趣旨は、新渡戸博士の国際性に裏付けられた高邁な思想と教養、1894(明治27)年に、博士ご夫妻によって設立された「札幌遠友夜学校」の教育理念を、多くの方々とともに幅広く顕彰し、この跡地の放つメッセージを国内外に発信し、札幌市民として一条の光を灯す責務を感じたからです。

メッセージの主なものは、地域や国内外に、第 1に無償のボランティア精神による若い世代の育 成、第2に国際平和の実現、第3に『BUSHIDO』 に基づく国際人の育成とアントレプレナーシップ (起業家精神)の涵養です。このような活動の場・ 拠点として、私たちはこの歴史の原点に、「札幌 遠友夜学校記念館」(仮称)も建設したいと考え ています。

私は昨年5月、国際連盟事務次長時代の活躍を 辿りたく、スイス・ジュネーブを訪問しました。 彼がこの地で活躍していたことは、当時の国際社 会において日本国民として誇りとすべきことです が、昨今その功績自体を認識している方々が極め て少なくなり残念に思っています。ただ歴史の間 れ的には、彼が事務次長を7年間で退任しての なく、日本は国際連盟を脱退し、国際社会から 立して戦争への道を突き進むことになります。 立して戦争への道を突き進むことになります。 在も国際連合ヨーロッパ本部の機能は、実質的に は国連(UN)の機能の7割であり、それがジュ オーブに集約されています。国際連盟時代から 貫して世界の平和・安全をつかさどる機関として の場の力を歴史に刻み、まさに、「場が放つメッ セージ」でした。

ここの約1時間の見学ツアーでガイドの職員は、領土問題解決として歴史的にも成功した事例として「オーランド裁定」を、その模様を描いたあの有名な絵画の前で説明しました。お話の中には中心的人物の「事務次長・新渡戸稲造」の名前は出てきませんでしたが、私は誇り高かったです

ね

国連訪問に先立って、当時の住まいにも足を運びました。その場ジャントーは、現在はスイス機械式時計メーカー「Frank Muller」社の工場本社「Watch land (http://www.franckmuller-japan.com/#/watchlandstory)」として、400名の技術者等で活気を帯びていました。受付で、突然ではあったのですが見学の希望を伝えると、広報担当のLaura Bondi さんが満面の笑みで案内してくれました。彼女は新渡戸稲造が1919年から8年間暮らしていたことはもちろん知っていて、この建物は1905年に、スイスの著名な建築家・エドモンファティオによって建造されたネオゴシック様式の城館「レザマンドリエ」(アーモンドの木々の意)で、初期の借り手が新渡戸稲造だったと、会社の記録にも記載されていると言っていました。

ブランド価値を大切にしているスイス機械式時計の世界的メーカーの工房・本社が、このレザマンドリエで拠を構えていることと、100年前に新渡戸稲造博士が国際連盟事務次長として国際社会の中で活躍していた姿とがシンクロナイズして、何とも胸が躍る訪問となりました。お会いした社員、職人の方々の笑顔の数々も素晴らしかったです。



新渡戸旧宅レザマンドリエ

さて、話を今進行中のプロジェクトに戻しま しょう。今現在検討されている記念館での事業概 要は以下の通りです。(1)市民向け教養講座(ニトベ・イングリッシュ・スクール、『武士道』・『農業本論』・『修養』他の読書会、講演会)、(2)教育プログラム(不登校児童・生徒の学びの場、障がい者の会、女性の会、等)、(3)町内会・地域のプログラム、(4)国際交流事業(国際平和、国際社会のリーダー育成、諸外国教育機関との連携)、(5)大学等のアウトリーチ活動、他です。

近いうちに「遠友夜学校未来塾(仮称)」を設け、 私たちはじめ地元企業経営者等を含めた幅広い人 材の参画を促し、建設に先立って今時代的な活動 プログラムを検討・充実して参りたいと思ってい ます。

この跡地は札幌市により、2014(平成26)年12 月に「新渡戸稲造記念公園」として造成されました。市民を中心とした私どもの会は、その公園の北東部(現在は更地)に記念館建設も目指しています。これには、諸内部設備及び機器類を含めおよそ1億7千万円の資金が必要と見込まれており、現在は多くの市民・企業・団体へご説明をしています。



一方、この間私たちは、この記念公園における 園銘板、2つの格言板(メモリアルウォール)、 この土地とブロンズ像に関する銘板の設置に際し て、文章表現等について新渡戸稲造と札幌遠友夜 学校に関する知見を活かして、市担当部署と意見 交換・助言を続けてきました。多くの市民の方々 に、記念館をイメージしながら、現地で公園内ブ ロンズ像横の遠友夜学校跡地銘板、2つの格言板 をご覧頂けると嬉しいです。



山内壮夫作「新渡戸稲造萬里子両先生顕彰碑」と 銘板(公園南側入□)−4頁



朝倉文夫作 「新渡戸稲造先生」座像(東京・多磨霊園)→5頁



大石灯籠 新渡戸メモリアルガーデン (ブリティッシュ・コロンビア大学、カナダ)→5頁



新渡戸メモリアルガーデン(ブリティッシュ・コロンビア大学、カナダ) (森歓之助 設計施工)→5頁

2014年創立120周年フォーラム基調講演 6.14

記念するには 所をえらぶ

大阪市立大学名誉教授 **佐藤 全弘**

1. 新渡戸稲造を記念する所

- ①多磨墓地…東京都西郊の多磨墓地の7区1種5 側に新渡戸家の墓があり、稲造、メリー、遠 益、琴子、誠も納められている。少し左に離れ た角地に朝倉文夫作の座像があり、その台座背 後には吉田増蔵作及び書の四言古詩が刻まれて いる。吉田氏は宮中に仕える人。
- ②新渡戸稲造紀念庭園…カナダ太平洋岸のブリティッシュ・コロンビア大学の適地に北米一の日本庭園があり、1 丈の大石灯籠があり、その竿の銘板に 'INAZO NITOBE/ APOSTLE OF GOOD WILL / AMONG NATIONS' とある。
- ③盛岡市先人記念館…1987年開館。1 階に新渡戸、 米内光政、金田一京助の室があり、新渡戸室は 最も広く、生涯の全貌が遺品で展示されている。 (私が全展示解説担当)
- ④十和田市立新渡戸記念館…1965年開館。元新渡戸がその和書6千冊余を、太田時敏家をついだ常利に与え、財団法人所有とするよう指示した。十和田開拓の傳(つとう)、十次郎の業績を記念する館は、稲造の死後30年以上をへて市の記念館となった。
- ⑤花巻市立新渡戸記念館…1991年花巻時代の新渡 戸家の事を展示するため建てられたが、今は稲 造関係のものも展示されている。
- ⑥その他…朝倉文夫作全身像は盛岡の生誕地にも あり、同作の胸像は先人記念館と十和田の記念 館にある。さらに台湾から実業家許文龍が稲造 胸像2つを、盛岡駅前と花巻の記念館に寄贈。

2. 遠友夜学校の推移

①開校…1894年1月、札幌市南4条東4丁目に。 メリーは1892年1月19日に生まれた遠益が同27 日死去し、身心の衰弱を治すため7月稲造につ れられ実家へ赴き、翌夏実家で生涯働いていた 女性の遺産1,000ドルを受け、日本に帰ってい

- た稲造と手紙で相談の上夜学校を開くに全額充 てることにした。メリーの日本帰国は94年3月 上旬か。
- ②廃校…太平洋戦争も形勢がわるく、遠友夜学校 にも前年より軍事教練を強制してきたが、1944 年3月末、理事会で廃校に決定した。夜学校の 歴史は50年。
- ③敷地建物を札幌市に寄附…1962年3月31日、市と遠友夜学校財団はとの間に寄附申立書交換。 条件は4つ、1)青少年の情操教育・生活指導・ グループ活動を行う。2)保育所を置く。3) 空地は児童の遊び場にする。4)新渡戸稲造並 びに遠友夜学校関係の業績を市と財団協同で記 念顕彰する。
- ④遠友夜学校建物撤去…公園とし、2011年240点 の記念品は市の資料館に移し、ついで北大博物 館に寄附申入れるも拒まれる。2013年北大は改 めて受諾と返答。
- ⑤一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」ができる…2012年12月。 1 億7000 万円を募金して、跡地に記念館をたてる計画。 2014年アメリカ人建築士Naomi Darlingの作当 選。

3. 記念の諸形式

人間がそれぞれの文化遺産――宗教を中心として、教育、政治、産業などの――を尊重する気持は尊い。それらのいくつかをあげよう。

①大阪府立夕陽丘高等女学校の跡地…大阪府立の旧い女学校は市中に3つあった――大手前、清水谷、夕陽丘。私の今の住所は、大阪城から南へ堺まで延びる上町台地で、夕陽丘もその上にあり、入日を拝した藤原家隆の墓もある。台地から30m高を下町に降りる坂7つの一番美しい、桜も咲く口縄坂に「霞もにほふ夕陽丘/大阪府立夕陽丘高等女学校跡」の記念碑がある。学校は今は500m程東へ移り、男女共学となっ

ている。

- ②あべの・はるかす東大寺展…今年4月1日開店のあべの近鉄百貨店(通称はるかす)は、高さ300mを越す日本一のビル開店記念に20階ごろの美術館で「東大寺展」を開いた。しかし東大寺の国宝なら、2年ほど前開いた東大寺南大門の南西側の「東大寺博物館」で見る方が、鹿もいて良い。
- ③御物法隆寺48体仏…明治11 (1878) 年廃仏毀 釈の嵐の吹きすさぶ中、法隆寺伝来の飛鳥・白 鳳・天平の国宝級の小仏像銅像を48体皇室に献 上し、1万円(今なら1億円以上)の下賜を受けた。これは元に戻すがよい。日日の礼拝上からも国民の拝観の上からも。
- ④ギリシャ・アテネのパルテノン神殿…このアクロポリス丘上の神殿の軒飾りの多くの女神像は、イギリスが外して大英博物館に移したが、もうトルコの侵略もない今日、元に返すべきである。
- ⑤法隆寺若草伽藍五重塔心礎…法隆寺西院から夢殿のある方へ真直な道を少し行った右側に、若草伽藍跡があり、1939年発掘調査したところ、火災の跡があり、今の法隆寺寺院の建物がある西院とは敷地の方角が合わない跡地が見つかった。堂の礎石はいくつか見つかったが、肝心の五重塔心礎がなかった。調査すると、明治以後そこにあった心礎は関西の某大富豪が求め移して、自宅の庭に石塔をすえる台石に使っていた。発掘の事情を説明されて富豪はその礎石の返却を快諾し、今は若草伽藍の元の位置に戻されている。この礎石により、法隆寺は日本書紀にあるように、火災のあと再建されたことが明らかとなった。
- ⑥興福寺国宝館…平安時代、藤原氏の氏寺として 栄華を誇り、多くの僧兵をもたくわえ勢力を 張ったが、平家の焼打にあい、奈良時代の建造 物は失われた。それでもなお有していた僧兵も、 江戸幕府の支配により権勢を奪われ、明治初め の廃仏毀釈で一層衰微した。今は除かれている 旧中金堂(3つある金堂の1つ)は、江戸時代 個人の寄附による仮建築で小規模のものだった が、それすら明治初年には仏像を放り出して 警察署に転用された。1426年再建の五重塔も、 500円で風呂屋が燃料にしようと落札したが、 解体にさらに50円必要と判って今に残ったくら いである。国宝の仏像はほとんど近くの国立博

物館(戦前は帝室博物館)に寄託することとなった。寺では復興計画を立て、食堂(じきどう)跡に国宝館を2012年に建て、博物館寄託の国宝類を返してもらい、広い空間に温かな光で祭り、香もかおり、素晴らしい礼拝空間を創造している。さらに3年後の完工を目指して天平様式の堂々たる新中金堂の建設も進んでいる。

4. 結び

- ①教育遺産…遠友夜学校は今から120年前、小学校にも行けず働いて、夜この学校に通って学びいそしんだ子供達の心の宿る所である。まさに記念に値する教育遺産である。
- ②新渡戸稲造が建てた唯一の学校…早稲田は大 隈、慶応は福沢がたてた学校だが、この2人も 他の多くの学校に尽くしたわけではない。新渡 戸は札幌農学校、京都帝大、一高、東京帝大、 東京女子大、拓殖大、東京女子経専、恵泉、普 連土、津田塾と多くの学校に関わったが、遠友 だけが新渡戸夫妻の建てた学校である。
- ③制度教育に見放された子供達の学校…明治20年代では、小学校は4年制で、それも貧しい家庭の子等は欠席が多かった。新渡戸が農学生の時からそれに気付き、対策を心に抱き、一米婦人の遺贈金全額を充てて独立夜学校を起こし、農学校生徒達を教員に奉仕する場として、その死後も志を継いで50年間無償の教育を施したことは、日本独一である。廃校後50年の1994年にも、元教員、元生徒らが北大に集って記念会を行った。
- ④「学問より実行」…これは新渡戸が最後の訪問の時揮毫した額の句である。善の実行、愛の実行、人格的存在の貴さを覚えての働きの貴さを示す。

遠友夜学校は新渡戸稲造の志と、それを具現したメリー夫人の愛と、1000人の卒業生、5000人の就学生の貧しき中に燃え続けた好学の精神と、代々奉仕して教育に当たった農学校、北大の600人の生徒教員たちの魂の薫るところである。その志の花開いた地に、ささやかな記念館を建て、教育の本質を今の日本と世界に活かすことは、この夜学校を知る者、まことの教育に心開く者の義務と信じる。(講演の概要)

遠友夜学校あれこれ(その1)

札幌遠友夜学校の人々

遠友夜学校研究家 中川 厚雄

50年間で在籍した生徒と教師の一人ひとりの調査はとても大変なことです。その調査の中の何人かを今後紹介していきたいと思っております。

1. 富宅益吉先生

奈良県十津川郷で1881 (明治44) 年に生まれる。 幼少の頃より勉強が好きで三里の道を歩いて文武 館と言う郷学に通い学問と武芸に励む。貧窮の中 ほとんど独学で学習し、やがて早稲田大学高等師 範部歴史地理科へ進む。卒業後1906 (明治39) 年、 縁あって北海中学校の歴史地理の教師となる。身 体大きく柔剣道を得意としていたから相当のワル も先生の近くに来るとおとなしくなるほど威厳が ある。しばしば好んで奈良の大仏の話をしたこと から「大仏さん」「ブッチャン」と綽名され親し まれる。日曜日になると子供を連れて真駒内に出 かけ自然観察をしながら時を過ごす。子供の絵が 入選すると五人の子供を連れて見に行き、帰りは 「そば」を振る舞う子煩悩でもある。また時折訪 れる「乞食」にも夫婦は何のためらいもなく家に あげて施しをする。厚生施設の話があると多大の 寄付をして感謝される。学校近くの住宅には親戚 の子供や生徒が下宿している。学校の開校記念日、 陸軍記念日、弁論部例会などで講演している。校 外でも新十津川をはじめ各地で講演している。こ の様な人類愛溢れる教師は自然と夜は遠友夜学校 にでかける。(*1)

記録によると1916(大正5)年4月19日から週1回好意をもって予科5・6年、本科で歴史の授業をすることになる。その頃の夜学校は本科1・2年、予科5・6年、予科1・4年、予科2・3年の四学級複式制で各組二名の教師が割り当てられ隔日出勤となっている。八名の教師の次に、歴史科教師として書かれている。

ところが現役の教師ですので授業だけではない。リンコルン会や菫会(*2)などに出席している。月次会(つきなみかい)と言う職員会議にも出席している。これ等の出席者氏名にはいずれも一番先に書かれ他の教師が続く。夜学校の教師はほとんど札幌農学校、東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学の生徒・学生でしたから、現役教師の言動に尊敬の念が強くある。天長節、紀元節、立太子式などの祝日は得意の講話をしている。1915(大正5)年第160回菫会例会の記録に「女の文字の説明を両手を使用して、実際に働くことを誇りとすべし」と講話内容をまとめている。その他教師が試験や実習で学校に来られないとき、また定山渓遠足で引率教師に代わって補充教師として進んで来ている。

このようにすべての事に愛情あふれる言動で生活している富宅益吉先生の姿は、遠友夜学校の創立者新渡戸稲造、「何人にも悪意をもたずすべての人に慈愛を以て」の名言を残し奴隷解放を宣言

尋常5年以上男生徒並びにかって5年以上の在学者及び本校教師で組織し月2回第2、4日曜日に例会を開き、主として会員の弁論、講演及び名士の講演を聞き会員の精神的方面の発展に勉める。本会は偉人アブラハムリンコルンを理想模範として崇拝しこれに私淑す。会員自治制をしき春秋2回大会を行い役員改選を行う。機関誌を発行し会員の感想を発表の機関として或いは知的方面発達に資す。1897 (明治30) 年開始。

堇会

尋常5年以上の女生徒並びに4年生在学者にして会員たるに足る者及びかって5年以上の在学者並びに本校教師を以て組織せることリンコルン会の如し。本会は会員の精神的智的において婦人としての智識を修養することに勉める。毎月1回第1日曜日に例会を開き目的に沿わんがため全員の感話等をなし、且婦人として勤倹貯蓄の精神を養わんがために麻草履の鼻緒及び紙袋を作ってその収入高今や驚くべき程に達せり。年2回大会を開き神武天皇祭に於いて総会を開き幹事の改選をなす。本年に於いては第166回より第180回に至るまで例会を完了せり。

^{*1} ここまでは北明邦雄「北中時代の野呂栄太郎」より

^{*2 1917 (}大正6) 年の学事報告より

リンコルン会

したリンカーン、南北戦争後札幌農学校でわずか 8ヶ月で、今も残るボーイズ・ビー・アンビシャ スのクラークと重なって見えてくる。

残念ながら1920(大正9)年スペイン風邪(インフルエンザ)にかかり3月31日他界される。数え僅か40歳。

記録では1916(大正5)年、1917(大正6)年、 夜学校勤務は確実。翌1918(大正7)年は夜学校 教師の出入りが激しく記録が十分なく不明です が、1919(大正8)年からは氏名が出てきません。 約2カ年でしたが夜学校教師たちに多大の影響を 与えたことと思う。現役の教師が夜、夜学へも出 るというのは並大抵のことではありませんが、働 きながら夜学校へ通ってくる生徒たちも同じであ り、共感する事もあったと思う。本物の先生がい た!!

2. ナイヤ先生

ナイヤ先生が出てくるのは1923 (大正12) 年の卒業アルバムです。この時に現旧職員が集合し、全体(38名) 写真をとります。これは『さっぽろ文庫』にもありよく知られています。その後各級に分かれて生徒・先生の写真があります。

「初等部高等科1年」の写真、前列に半澤先生の左右にナイヤ先生、出口先生、古屋先生、吉田先生が並び、後ろに三列で生徒21名が写っています。従って大正12年前後の先生ですが、大正12年度の教師名簿には載っておりません。

インド人留学生で本名アラムーダ・ナラヤナン・ ナイヤーです。入学は1921 (大正10) 年北海道帝 国大学附属水産専門部製造科 2年級です。翌年 3年級となり聴講生で受講しています。卒業は 1923 (大正12) 年3月31日、卒業名簿にあります。 このナイヤ先生(遠友夜学校資料では常に「ナ イヤ先生」とある)と遠友夜学校の話は1907 (明 治40) 年までさかのぼります。この明治40年は札 幌農学校から東北帝国大学農科大学に昇格した年 です。この時二つの新設がありました。一つは水 産学部でもう一つは応用菌講座です。応用菌講座 の担当が半澤先生です。水産学部の初期の生徒が 遠友夜学校に多いと思っておりましたが謎が解け ました。横路にそれましたが、水産学部は大正7 年水産専門部となりますが半澤先生は教え続けて おりました。

このような理由で応用菌講座を受けたナイヤ先

生は遠友夜学校に足を運ぶことになります。不明な所も多くありますが、半澤先生の懐の深さ、差別なく、すべての人に慈愛をもって接し、人間力のある人を遠友夜学校にすすめた一人にインドからの留学生、ナイヤ先生がいた。国際交流のある遠友夜学校!!



遠友夜学校初等部高等科1年 生徒と教師たち 右端 ナイヤ先生、中央 半澤先生 (資料提供:北海道大学文書館)



ナイヤ先生(前右2番目)、半澤先生(前右) 応用菌学講座旧蔵アルバムより(資料提供:北海道大学文書館)



遠友夜学校中等部生徒と教師たち 前列中央:半澤代表 (大正13年〜昭和3年頃撮影) (写真提供:原田家)

札幌遠友夜学校創立120周年記念作文・論文コンクール

ごあいさつ

北海道大学名誉教授 審査委員長 **三島 徳三**

「一般社団法人 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」が遠友夜学校創立120周年を記念して行った作文・論文コンクールに、一般の方から3編の論文の応募がありました。しかし残念なことに、小学校・中学・高校・大学・大学院の生徒・学生からの応募はゼロでした。これは私たちの宣伝不足も原因と考えられますが、明治27年に新渡戸稲造夫妻によって始められ、太平洋戦争中に閉校を余儀なくされたこの高貴な事業が、戦後70年を経て今や世間から忘れさられていることの反映とも言えます。

一般からの応募テーマ(指定課題)は、「新渡

戸稲造の『武士道』と札幌遠友夜学校に学ぶ」が 1編、「新渡戸稲造の思想と札幌遠友夜学校の今 日的意義」が2編でしたが、ここでは優秀賞を受 賞した2つの論文について、その全文を掲載いた します。

来年度以降の作文・論文コンクールの開催については未定ですが、新渡戸稲造の思想と札幌遠友夜学校の実践が、混迷する現代社会の方向に与える示唆は大きく、会としては事績を若い世代に伝える努力を継続していく所存です。

今後とも皆様方に暖かく見守っていただけるよ う祈念し、ごあいさつと致します。

札幌遠友夜学校創立120周年記念作文・論文コンクール 優秀賞論文

新渡戸稲造の思想と札幌遠友夜学校精神の今日的意義

す だ まこと **須田 洵**

1. 新渡戸稲造と「札幌遠友夜学校 |

札幌農学校(北大の前身)の誇る新渡戸稲造が、120年前に札幌の地につくり、70年前廃校となった「札幌遠友夜学校」の高い精神性こそ、いま、この国(日本)を覆いつつある「将来不安」を救う方向に活かすべきとみて、その論旨とりまとめに挑むものである。

(1)新渡戸(太田)稲造 ―その壮大な足跡を たどって―

新渡戸稲造は、福沢諭吉と並び日本の近代化に 貢献をされた偉大な先駆者である。私は、北大農 学部の一卒業生として改めて新渡戸稲造の生きざ まを私なりにトレースしてみた。封建時代末期に この世に現れ、明治、大正、昭和の初期に至るまで、正に近代黎明期の日本に多くの刻印を印し70年余をフルに燃焼された。その全生涯から、次の5点にしぼって私なりの感想をまとめてみる。

第一点は、「グローバル」に生きることの大切 さを果敢に先取りされた巨人が約100年も前の日 本におられたこと。

若き太田稲造、札幌農学校の第2期生を終えて、めざしたのが東京帝国大学文科大学。その文学部長外山教授に志望理由を問われての答、「私は太平洋のかけ橋になりたい」と。そのスケールの大きな発想に驚く。そして、「太平洋の橋とは何か?」との反問に、「日本には日本の長所があり、西洋には西洋の長所があります。東西の文明が融合しなければ文化の華は咲かないと思います。私は、

日本の長所を西洋に教え、西洋の長所を日本に輸 入する「橋渡し」の役をするために、さらに英語 に精通したいのであります」と答えたという。

グローバル化をめぐっては、今必要論が高まる中、それに反対する立場もあり、さらに現実にTPP等にも関連して賛否の声は激しい。私はいずれにしてもグローバル化においては優れた「橋渡し」の役は不可欠なものだと考えたい。新渡戸稲造は、後年60歳近くの円熟期に国際連盟の事務局次長を7年間勤め、"連盟事務局の良心"とまで言われたという。

(注) このことに関連して、ある新聞スクラップ (日本経済新聞、2013年12月) がある。「アジア・太平洋の架け橋に」でTPP、RCEP 束ねよという岡部直明氏の推論。TPP自体にはいろいろ論議はあろうが、当時新渡戸稲造(日本)、ジャック・モネ(フランス)が国際連盟事務局次長で席を並べていたことに着眼しての巨大な発想、こういう正に現代的発想につながる新渡戸稲造の存在であった。

第二点は、日本の「武士道」を世界に知らしめたことである。若き新渡戸稲造は、常に「日本の長所あるいは誇り」として「武士道」に着目、広く世界に知らしめた。西洋にも騎士道があり、その誇りをもって臨む、要はお互い広い視野と柔軟な理性をもって西洋も東洋も論じ合い、かみ合わせていくべし。gentleman同士でその交わりのレベルを高めるべしということであろう。

そして、「武士道」を語るには、新渡戸稲造は 堂々たる資格を備えていた。南部藩の武士の家に 生まれ育ち、祖父は三本木原開拓の大偉業を遂げ た「超良血」と訓育に恵まれて育った。「武士道」 を書き記す最高の資格者だった。無論、稲造の残 した「札幌遠友夜学校」も正に「武士道」の心な くしては生まれ難い発想であろう。

新渡戸稲造の一生をみて思う第三点、それは、人間愛を貫くキリスト教、あるいは宗教の力である。新渡戸稲造の場合、とくに若い20歳代の時渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学に留学中にフレンド派クエーカー派に入信したことが決定的でもあった。それにより、エルキントン嬢との出合いだけでなく、終生人間愛に溢れ、そして人道主義を貫いた生きざまの基盤となっているように思う。信仰の力の素晴らしさ、強さを感じた。

(注)特に「遠友夜学校」には、新渡戸、有島武郎など キリスト教の力が大きく貢献している。この「宗教の 力」は、今日、多忙な日々において次第に低下しつつ あるように思う。しかし、ごく稀な例かもしれないが、 私はトップ企業の社長を30年以上もやりながら、極め て敬虔なクリスチャンを両立させている鮮やかな好例 を見ている。敬虔な宗教への姿勢はハードな企業経営 の推進力にもつながり得る。

第四点は、内村鑑三、宮部金吾そして新渡戸稲造という3巨人がめぐり合わせ、互いに励まし合い、あるいは競い合い、そして大きな意味では助け合う「熱きスクラム」を見たことである。内村鑑三が「札幌3人組」といっていた札幌農学校の第2期生、この3人の出合いは、13~14歳の少年の時、東京の官立東京英語学校に入学し、英語、英文学を学んだ時が最初なのである。この3少年黄金トリオは「英語」を競い合って練磨すべく申し合わせ、3人間の会話は一切英語で行うことであった。

この札幌3人組のうち、内村鑑三は、若き日キリスト教に入信以来、生涯にわたり非戦論・平和を唱え、それが後の平和憲法(9条)につながり、一方新渡戸稲造は、戦前の教育勅語廃止から戦後の教育基本法制定につながる戦後教育の原点に立たれている。宮部金吾は、二人を天国に見送った後、ひとり「札幌」を守り続け、91年の生涯を徹底して札幌で過ごされ、後に伊藤誠哉や木原均等を生み出し、世界の学会をリードする日本の「植物病理学」を築き上げた。3人とも札幌農学校らしい見事な生きざまだったのだ。

そして、最後に、私はもう一つ加えたい。それは新渡戸稲造と「アメリカ」という第五点である。今、混迷、そして厳しい民主主義社会における日本との関係も含めて、すでに今は亡き新渡戸稲造なら、その熟知されている「米国」をどうみるであろうかという問いかけの意味でもある。

新渡戸稲造は、満州事変勃発の翌年、日米関係が急変し、緊迫化した1932年、正に命がけの全米行脚を行った。米国の人々や心を知る彼ならではの任務,しかしそれが心身を追い込み、カナダの病院での客死となった。

それにもかかわらず、結局1941年遂に日米開戦 となり、1945年日本の惨敗で終わる。そして、新 渡戸稲造と米国のドラマは続く。日本の敗戦とな り、今度は勝った米国の主導で、日本には平和な 民主主義国家への道が拓かれた。さらに、日本は それをもとに、米国をはじめ刮目するほど復興から見事な経済の大成長を遂げた。そして、米国の指導による平和憲法を貫き、今なお日本の安全保障も米国の傘下で守られている。このように、新渡戸稲造などが体を張って日米開戦を未然に防ごうとしたにもかかわらず、開戦に至ったことが、むしろハッピーな方向に導いたかの如く見られなくもない。果たしてそう考えて良いのか。

米国は依然基軸通貨「ドル」を中心に、民主主義国家というより世界経済の大黒柱である。ただ、パックスアメリカーナの光彩ややうすれ「世界の警察」の役割までは厳しい状況にあるようだ。また、体制的に対立する立場の中国との相互依存も深めるなど、微妙に変化しつつあるのではないか。経済の面でも「オイル・シェール」で息を吹き返してはいるものの、その一方でFRBのイエレン議長自ら米国経済の抱える問題として「格差問題」にあえて言及するなどの状況もみられる。今後の日米関係のあり方にも関連して新渡戸稲造なら、この米国の「現在・将来」をどう読み解かれるであろうか。

以上が、私なりに新渡戸稲造から感じる5つのポイントである。次に、その新渡戸稲造が「札幌」の地に残した「札幌遠友夜学校」につき整理し、その今日的意義について考えたい。

(2) 札幌遠友夜学校とは

新渡戸稲造がその人間愛の結晶として札幌に作り残した夜学校である。明治半ばの貧しい頃、未だ子どもでも働かねばならず、学校どころでない人々のためにつくられた学校である。明治27年につくり、昭和19年まで実に50年も続いた。新渡戸稲造は、「札幌」を30代前半にして離れ、米国、台湾、欧州等、正に世界をかけめぐり、札幌に戻ったのは、ただ2回だけ、しかし、札幌を離れていても常に遠友夜学校のことは気にかけ、常時連絡をとられ、経済的にも応援し続けた。この夜学校への思いは、終生熱かった。

以下、この夜学校の成り立ちや経緯、そして何故50年も続いたのか、その驚異的ともいえる実態について私なりに整理してみる。データは、後掲の資料と今は亡き父母から聞いたものなど総合してまとめる。

①どんな学校?

全く新渡戸稲造の発想による学校。わが札幌に

こんな学校があって良いのではなかろうかの発 想。これは彼が札幌農学校を卒業して東京帝国大 学文科大学にあきたらず渡米し、留学中に、親友 宮部金吾に送った「手紙」に原形があった。

どんな学校か、それはこの学校の生徒募集のビラ「文盲への宣言」一枚にすべてが表わされている。このビラが明治27年から大正、昭和の18,19年ぐらいまで札幌の街などに貼られていたのであろう。(「文盲」のルビは原文のまま)

まず、このタイトル「文盲への宣言」と趣旨説明はユニーク。さらに、「本校の特色」として「世界で、これほど、どんな人でも入れる学校はありません」から始まり、「男でも女でも構いません」、「月謝=授業料は要りません」、「学用品は、初等部ならさしあげます」など。特に凄い特徴は、毎年齢不問、男女不問。明治、大正の頃では考え難は、年齢不問、男女不問。明治なたでの国、たとえ難がしたであった。明治20年代位のこの国、たとえ難がしたのだ。新渡戸稲造が、こういう学校を作るうではないかと思っても、学校をたてる用地はであったのが、建設資金はどうするのか、先生(教師)は、どうするか等、多くのカベがあった。理念は素晴らしくても、なかなか起動できない現実にあった。

②できた契機は?

そうした状況において、明治26年、新渡戸家に 思いがけない福音が舞い込んだ。それは、萬里子 夫人の実家から1000ドルという当時としては大金 が夫人あてに送金されてきた。メアリーさん(日 本名萬里子) は、米国フィラデルフィアの旧家エ ルキントン家の令嬢だが、エルキントン家は熱心 なクエーカー派のクリスチャン。特に父君ジョセ フは、若い頃から身寄りのない孤児を引き取り、 面倒を見る等慈善心に富んだ人だった。その父君 が引き取った孤児を家族同様に育て上げ、孤児も また後に新渡戸夫人となるメアリーさんと姉妹同 様に暮らし、どこにも嫁がずに生涯をエルキント ン家に仕え召天し、その老召使がコツコツ貯めた お金がメアリーさんへと遺言にもとづき送られて きた次第だったのである。いかにも慎み深く敬虔 なクエーカー教一家の清らかなお金だった。それ を稲造がかねてより考えていた夜学校づくりに全 面的に役立てることとなったのである。

それで、明治27年1月、当時札幌の豊平橋近く にあった札幌独立教会の日曜学校に隣接する敷地 を買い取ることとなった。異郷で助けられた孤児が一生貯めた浄財が、遠友夜学校づくりの発火点となった。このような契機からつくられた学校であるから、論語の一語と重ねつつ「札幌遠友夜学校」と命名。

③50年も続けられた要因

特に学校を出たから得られる資格も特にない夜 学校、公的な助成として、宮内省御下賜金、道庁、 札幌市、内務省と、人々の「善意」で運営された 学校が、明治27年から昭和19年まで約50年間も続 いた。厳しく暗い時代に一体どうしてそんなに長 く続いたのか?

<第一の要因、「教師」は、札幌農学校または北 大の学生さん>

「学校」である以上、「教師」の確保は前提。その財源もない以上、基本的に「学生」の無料奉仕に頼らざるを得ない。精々、市電の切符交付。年齢こそ若いが北海道で唯一のかなりのレベルの子弟が集まる農学校や北大(予科、本科)の学生たちに依存した。札幌の人々は、北大の学生たちを「学生さん」と優美に呼び大切にしてきたし、北大生も、この夜学校を開いた新渡戸稲造などのリーダーに協力すべしとの心が強かった。

<基本線は、新渡戸─宮部の絆、そしてこれを継 ぐ有島、半沢らの基幹人脈>

教師は北大の学生に依存するとしても、学校運営を貫く校長中心の基本ラインがつながらないと、50年近く続かぬ。それが見事につながったのだ。遠友夜学会の代表(同時に夜学校の経営責任者)は、新渡戸稲造が札幌を去られた後、宮部金吾、そして数年経って大島金太郎、さらに有島武郎、さらに有島の同期生蠣崎知二郎、そして野中時雄、小谷武治へとつながれ、大正10年6月、北大では宮部、大島の流れを汲む「納豆博士」半沢洵を長期に及ぶ代表として迎えた。

そして、この基幹人脈を支える農学校または北 大各学部学科の方々による内部的サポート(例え ば「遠友」の毎夜の授業やリンコルン会などの諸 行事のプラン作成、教師などの手配、連絡、会計 等々)には、凄まじいものがあった。そうした支 えの大きな柱となられたのは、共に今は亡き高倉 新一郎教授、石塚喜明教授のスーパー教授であっ た。

< 「札幌」の篤志家たちの素晴らしい応援、支援 の力> 50年も続いた要因あるいは影の力として、教師 (北大生ら)、基幹的リーダーの存在に次いで大き い第三の力は、地元札幌の篤志家たちの応援、支 援を挙げるべきだと思う。

萬里子夫人の実家より送金された元孤児の貯めたお金は、差し当たり豊平の用地取得に活かされたが、この夜学校の運営のためには、当然さらに多くのお金が必要であった。そのようなお金として、新渡戸稲造をはじめ、札幌農学校や北大など学校関係者だけでなく、学校関係者以外の方々からの「寄付」に頼る面がかなり大きかったようである。大正11年、皇太子殿下ご来道を機に、勅使のご派遣を得るという光栄に浴した半沢洵校長は、運営体制強化のため「財団法人」組織に改めることとし大正12年8月、その認可を得たが、その時の理事4名には、新渡戸、宮部、半沢という大学関係者らに加え三島常盤氏がおられる。

この三島常磐氏は、札幌写真師会の草分け、熱心なクリスチャンで会計を担当された。三島氏の夜学校への奉仕は、明治以来だったようで、法人設立後は、収入不安定な貧しい財政のやりくりに老躯に鞭打って奔走された。(なお、三島常磐氏の子息三島康七氏も北大農学部で遠友の教師を担っておられる。)

また、評議員にも民間篤志家の方が入り、校舎 大改築などの折につけ、札幌の有志の協力へつな ぐなど暖かい応援があったことが伝えられてい る。

<不思議な力―教師と生徒の引き合い>

この学校が50年も続いた要因あるいは理由として、私は敢えてもう一つ加えたい。

それは無資格の学校でもいい、疲れた体にムチ打ってでも学校に行きたいという生徒たちと、無報酬でもいい、オレの授業を真剣に聞いてくれるあの生徒たちに会えるなら、オレも相当疲れているが行く、行きたい、という思いの教師の間に引き合うものがあった。そういう不思議な力が働いた。まるでマジックだ。

このことは、わが父母からも聞いているが、「遠 友」を最後まで見とどけ記録された、前記高倉新 一郎教授の文章でも明白に残されている。高倉先 生は、「帯電体」という言葉を使っておられる。 その記録を、以下に若干抜粋する。

「…こうして教える者と教えられる者が融け合っていた。共に大きな負担ではあったが、その 負担を負担と感じられなかったのは、単なる若さ だけではなかったようである。いわば「帯電体」であった。一種の恋に似たものであったかもしれない。教師と生徒は、この学校で互いに引き合った。そして白熱を発し合ったのだった。この状態を、夜学校の晩年に同じく教師であった北大教授石塚喜明君が書いている。」(高倉新一郎「札幌遠友夜学校」、札幌遠友夜学校創立百年記念事業会編『思い出の遠友夜学校』36-40ページ、北海道新聞社、1995年)教師も、生徒も、共に夜学校へ、夜学校へと引かれる様子を。

無論、教師も生徒も色々な方がおられて、この高倉、石塚両教授の見方がどれだけ一般性があったのかは、今は調べるすべもない。ただ、このことは、決してお二人だけでなく多くの方々も共鳴されているようである。そうでもなければ、こういう学校が50年も続くことは考え難いともいえる。

④最後はどうなったか?

明治27年(1894年)に始まった夜学校は、さまざまな苦境を、関係者の凄まじい熱意により切り抜け、大正、そして昭和へと進むことができた。しかし、日本は、日露戦争から満州事変などを経て次第に国の姿勢も変わり、遠友夜学校が存立し続けるのは厳しくなって行く。

そして、昭和8年10月15日、夜学校は、その太陽を失った。創立者であり校長である新渡戸稲造博士のカナダにおける逝去である。夜学校は直ちに萬里子夫人を第2代校長に戴いたが、その夫人も昭和13年9月、軽井沢で亡くなられた。そのあとは、開校以来の功労者半沢洵博士に就任していただくが、やはり、精神的に大きな柱を失ったことは大きい。

さらに、この夜学校を取り巻く環境として、次 第に義務教育が浸透して行くとともに、日本の国 家戦略に必要とされる教育の「統一的推進」とい う方向、ズバリいって、遠友夜学校のような存在 はむしろ不要、軍事教練などもやらない学校はも う解散してしまえ、との方向へ大きく傾く。その トレンドの中、生徒数もいよいよ減少、そして、 遂には「学徒動員」は、「教師」も奪い去り、夜 学校に決定的なダメージを与え、やがて「閉校」 の日を迎える。

昭和18年6月18日に、「50周年記念式」を挙行し、 夜学校最後の行事をとり行った上で、昭和19年4 月30日、半沢校長が、新渡戸、宮部など創立以来 の回顧を行いつつ廃校を決議し、手続きをとって 行く。なお、しめくくりとして、計数的に整備さ れている限りでの生徒数の推移(昭和4年以降~ 19年春まで)の在校生の内訳は、表1の通りとなっ ている。

いかにこの15年で生徒数が減ったかよくわかる。なお、明治27年以来、50年間の卒業生は、1,100人を超えるが、卒業には至らず一時的に学んだ者は、この5~6倍といわれる。また、教師として働いた学生数は数百人に及ぶ。

⑤わが親たちから見えるもの

私の父(須田政美)は、北大農学部本科の学生 時代を中心に遠友夜学校の教師を熱心につとめて いる。そして、母(須田秀)は、夜学校卒業生で はないが、「中等部」の生徒として在籍した。

また、私の妻の父(中條猛)は、北大予科の時、「遠友」の教師を1年間務めた。私たちの親はすでにこの世にいない。私たち子の世代ももう「高齢」に。今のうちに記録にとどめる責任を感じる。

<私の父(須田政美)のこと>

すでに25年前に他界している。北海道の余市で 生まれ育ち、幼い時に父が死亡。母親が必死に働 き育てた。生きるため余市から樺太へ。そして豊 原中学4年修了で北大予科合格など父も頑張っ た。貧しい母子家庭で、夜は女性に交り電話交換 手(アルバイト)をやりながらの予科合格。

北大では、寮歌「黒潮鳴れる」の作詞も残す。 「遠友」の教師、幹事など積極的に貢献。農学部を卒業後、辺境農業あるいは開拓行政一筋の人生を歩んだ。樺太の開拓地を経て満州へと渡り、満州開拓(満拓)、そして戦後引き揚げ、岩手、青森、北海道へと起伏に富んだ一生を終えた。父は、常に弱者の味方、そして「苦労」の道を選んだ。

表1 学年始在校生調べ(昭和19年は1月)

単位:人

	年	昭和4年	昭和9年	昭和15年	昭和19年
		(1929年)	(1934年)	(1940年)	(1944年)
初等部	男	74	57	42	7
	女	21	10	9	2
	計	95	67	51	9
中等部	男	125	115	100	21
	女	34	17	9	5
	計	159	132	109	26
全校	男	199	172	142	28
	女	55	27	18	7
	計	254	199	160	35

従って、妻には「共苦労」に耐えられる人を選んだ。その眼にかなう女性を「遠友」の生徒から選んだようだ。北大卒業間近に、その人を下宿に誘い出し直接会って「考えて下さい」と言った。その人が私の母であった。実は、家の事情で、「遠友」には来れなくなっていたのだ。そして、やがて双方とも親の承認を得て「共苦労」のスタートとなる。ロマンスとか浮いた話ではないと双方言いつつ、ややロマンスっぽい物語。このいきさつと時代背景について、父のある友人から、当時の父からの打ち明け話を綴った手紙を、父の没後お送りいただいた。ささやかな記録(「父須田政美の軌跡」、平成12年)としてとどめてある。

<私の母 (須田秀) のこと>

山形県遊佐町、庄内の米どころの農村で、若い男女が結び合い世帯をもつが、とても庄内では食べていけない。その「高橋」一家、同郷の人を頼り新天地北海道をめざす。子も増え、親2人、子8人(男3人、女5人)の世帯、札幌を転々としては必死で働き、生きる。生きていくには「教育」どころではない。わが母は、その三女だったが、「小学校」を終え、父(植木屋)の頼みで、北大医学部教授室の「給仕」として働く。しかし「もっと学びたい」思いの母は、遠友学校生徒募集を知り、通うこととなる。しかし、家の都合で遠隔地へ引越し、父の視界からも消えることとなった。父の状況、母の状況、それぞれである。新渡戸稲造は、こうした社会状況を汲み「夜学校づくり」に進んだのであろう。

<妻の父(中條猛)のこと>

妻の父は、私の父より北大農学部の1期上(農 学科)である。私的に残した「生い立ちの記」に よると、「私は1年間だけであったが、札幌遠友 夜学校の教師をしたことがある。」とある。そして、 「遠友夜学校というのは…、教師は、北大の助手 以下学生生徒が無報酬でこれに当たっていた。私 も貧乏育ちであったが、北大に通えるだけ幸せと 思い協力することにして、「中等部3年の数学」 を受け持った。しかし、夜のことではあり、授業 を終えて琴似の自宅へ帰り着くと随分遅くなるの で、残念ながら1年だけで辞退するの止むなきに 至った」とある。誠実で飾ることのない猛さんの 言葉だと思った。ただ、当時の北大生たるもの、 少なくとも一年位は遠友夜学校の教師やるべし、 が「心がけ」あるいは「たしなみ」のようなもの であったことの立派な証明になると、私は読んだ。

(3) 今日的意義を考える

以上の(1)、(2)を通じて新渡戸稲造その人の足跡をたどり、また、稲造が札幌につくった遠友夜学校の成り立ちから閉校までの姿を描いた。では、その遠友夜学校の今日的意義をどう考えるか、これは難しいテーマである。時代背景が余りにも違いすぎるから。

ただ、義務教育制度が確立し、大学までの進学 も大きく進んだ今日、同じスケールのものを作る 必要性、可能性は、ともに低いかも知れぬ。新渡 戸稲造逝去(昭和8年=1933年)後、彼の必死の 努力にもかかわらず「日米開戦」に、そして昭和 20年(1945年)日本の惨敗、米国主導の民主主義 体制が敷かれた。内村鑑三の思いも受け継いだ「平 和憲法」に合わせて新渡戸稲造の教育理念を受け た教育基本法体系の下で、今の教育制度が確立さ れている。新渡戸稲造死してもその思いは一高校 長時などの子弟関係を軸に、教育勅語の廃止から 教育基本法づくりに至る新しい教育体制の整備に 名を残す前田多門、安倍能成、南原繁等、さらに は、矢内原忠雄等々新渡戸稲造の愛弟子あるいは 薫陶を受けた錚々たる方々に担われ民主教育のフ レームが築かれた。そして、小学校、中学校まで の義務教育制度が確立され、さらにその上の高校、 大学等への進学率も今や高水準まで来ている。た だ、教育をめぐる問題はつきない。むしろイジメ、 不登校さらには学級崩壊など荒んで行く。親も子 も「エゴ」の意識が進み、ともすれば教育の現場 にある人々に過重な欲求がつきつけられる実態を 憂慮する。厳しい財政問題もある。しかし、その ために「遠友夜学校」のようなものを今つくり大 学生たちにボランティアをやってもらうような枠 組みは、実際上、かなり厳しいと考える。

そうはあれ、札幌遠友夜学校の残した精神的ファクターは、教育に限らず学ぶべきもの極めて大きいとみる。そのためにも、この「遠友」をめぐる過去の経験や感動を、着実に引き継いで行かねばなるまい。

その意味では、私は、昭和6年5月17、18日の新渡戸稲造校長、(久々にして最後の)札幌入り、そしてその際の遠友夜学校訪問の教師、生徒へ贈った素晴らしいスピーチのことは、私なりの思考も添えて残しておきたい。

①新渡戸稲造、最後の夜学校訪問

新渡戸稲造は、「札幌」には、青年の頃の札幌

農学校と教授時代の札幌農学校勤務の2回しか暮らしていない。一時的訪問も2回のみ、そのうち記録に残されているのは2回目の昭和6年5月17~18日、夜学校訪問は18日夜。

まず、新渡戸校長最後の札幌訪問(この約2年後にカナダの病院で逝去)となった5月下旬は、 北国の長い冬が去り、木々や花が一斉に色づき、 札幌の最も美しい季節である。たしか、有島武郎 が「札幌は美人におわします」と讃えた季節だ。 この日の札幌駅頭での校長先生と生徒たちの出合 いの光景から入る。

その日、新渡戸稲造は、実に20年ぶりに渡道し、 遠友夜学校の生徒たちとはじめて対面することに なった。夜学校の代表である北大教授半沢洵に付 き添われた一団の生徒たちは、校旗を先頭に、足 どりも軽く札幌駅に向かって行進した。当時の新 聞は、その劇的な風景を次のように伝えている。 「やがて、待ちに待った校長が慈愛に満ちた眼差 しで彼らの前に現れたとき、歓呼のどよめきは忽 ちにして粛然たるすすり泣きに変わっていった。 世の貧しい青少年のため終生変わらざる愛情を持 ち続けた新渡戸の崇高な精神は、夜学校入校以来、 彼らの心に奥深く刻みこまれていた。それがいま、 新渡戸に対する感謝と思慕の情となって、無意識 のうちに涙と共に発露したのである。歓迎の辞を 述べる生徒代表も感きわまって声が出ず、新渡戸 もまた目をしばたくだけであった。」

映画や作り話ではない。今から84年前の札幌駅頭で実際にあった事実である。新渡戸稲造は、この待望かつ久方振りの札幌訪問で、後世に伝えられるべき素晴らしい言葉のプレゼントを残している。それは、この訪問の多忙なスケジュールの中、5月18日夜、待望の遠友夜学校訪問を実行し、教師はじめ生徒全員に語った訓話の奥深い内容である。私は、この訓話の中で、まるで21世紀の私たちに贈ったかの如く捉えられる次の部分を見逃さない。それは、「遠友夜学校」の「遠友」命名の由来説明にある。

既にこの校名の「遠友」は、論語の「有朋自遠 方来不亦楽乎」から来る。つまり、遠い国アメリ カからきわめて善意に満ちたお金が届いたことも 踏まえ、「友あり、遠方より来る。また楽しから ずや」の意をこめて「遠友」とされてきた。この 説明を先生は、夜学校の訓話では、次のように解 説された。 『……この句の意味は、国も名も言葉もわからぬ人、どこの人ともいわれぬ人がやってきても、会って話してみると何となくわかる。そのような人は名を知らず国を知らずとも心と心が合えばこれすなわち友達である。友達とは名を知るのが条件ではなく心が合えばいいのである。年齢が違っても位置が違っても、一人は高い役人でも一人は偉い学者でも金持ちでもそれは大した事ではない。相会って金持だとて威張らぬ、学者だとて役人だとて人を見下げぬ、何となく気持が良い。こういう人と会うと嬉しい。人間の楽しみは、何といっても気の合う人に会うことである。この意味を孔子が「有友来於遠方……」といったのだ。この言葉になぞらえて「遠友」という。』(学期報「遠友」第9号、1931、《注:字体等現代的に修正》

②今日的にどうみるか

この説明、実に奥深さを感じる。「国も名も言葉もわからぬ人、どこの人ともいわれぬ人がやってきて」は、国内の人だけでなく外国の人とお付き合いしていく基本姿勢にもつながる。その時は、金持だから、役人だから、学者だからどうのとか構えずにお付き合いすればよい。国を知らずとも(肌色などがちがっても)、心と心が合えば、これ即ち友達である。まるで、今世紀の日本人が世界でビジネス等でつき合っている基本姿勢にもつながるものではないか! そして新渡戸稲造が敬愛してやまないリンカーン精神にもつながる。「遠友」とは、そういう意味(グローバル)があり、正に現代にもつながるものと理解すべきかも知れない。「グローバル夜学校」、どなたでも学びたい人いらっしゃい、待ってますよ!!であったのだ。

さらに、新渡戸稲造は、その訓話において、重ねてリンカーンのことにふれ、貧しい少年時代から向上していったことなどにふれている。また、自分の家にいるメシ炊きのばあやの話(台所にいても暗闇の中の太陽のようでいつもニコニコ、何をしても「有難い、有難い……」という。)この学校の立ちあげに貢献した米国の孤児に関連して「犠牲」の大切さ等々。どれもが「帯電体」を生じそうな「人間愛」を感じる。新渡戸稲造の生きざまを通じて得た集大成が、この「訓話」だと思う。そして、この精神こそ後世、とくに現代につながるべきものと考える。その辺は、私なりに現代(戦後70年を経て)を見つめた上で、さらに考えてみたい。恐らく今日的意義はたっぷりありそ

うである。

2. 戦後70年、民主主義70年、見えてきた 重い課題

(1) 民主主義も結構厳しい

新渡戸稲造、カナダの病院での逝去後約7年で 日米開戦、4年足らずで日本敗戦。そして、米国 主導で日本は民主主義体制へ移行した。その後復 興から経済の大成長へ、世界が刮目する展開が遂 げられた。ここまでは、天国におられる新渡戸稲 造も「やれやれ、良かった、民主主義へ移行でき て」と安どされたであろう。今年は、その敗戦後 70年の節目を迎える。

私は、終戦時、満州(新京、今の長春)で8歳の小学2年生、そして今78歳近い老人。何よりもこの70年の「平和」をかみしめているが、この国の現状、未来に関しては極めて厳しいと見ている。私はもう高齢でどうでもよいが、子や孫、さらには後代を考えると申し訳ない気持である。先行きに大きな不安を覚える。

その不安の中味、この70年の節目にこそ、はき出しておくべきと考える。あえて申せば、この国が体験した「民主主義」70年の「**負**」の部分をいちど晒してみるべきである。

私は4点とみている。「エゴ」、「経済至上主義」、「パフォーマンス大隆盛」、そして「財政悪化」の 4点。これらは着実に社会を触みつつある。それ らを説明する。

A. 老いも若きも「エゴ」の固まりへ

自由主義、民主主義の看板は、「個人の自由」。 社会秩序の維持には従う等の制約付きではあるが、広汎に「自由」を得る。この個人の自由、結構だが、負の部分もある。「自由に生き、行動したい」の自己主張、わがまま、利己主義が身につく。そして、優勝劣敗、弱肉強食の競争社会で生きねばならぬ。生まれ育ち、学校、職場と進むにつれ否が応でも「エゴ」社会の一員として鍛えられていく。私もその一人である。同時に、その競争社会に入りにくい人、落伍者なども相当出てくる。学校や職場でもイジメ、ノイローゼ、不登校、さらには「引きこもり」も増加し、T.ピケティの論述にあるように「格差拡大」も進む。

B. 経済至上主義も強力に進む

人々がより豊かで安心した暮らしを続けるには、それを支える経済が基本だ。分かち合える「経済のパイ」を大きくすべしと「経済成長」は至上命題となる。それは、Aの「エゴ」意識と結びつき、「今生きている我々の社会の経済成長をできるだけ大きく」のプレッシュアが働く。これが多くの問題を生む。「後代の子孫のためそこまでは手を出さぬ」や「守って後代につなぐ」意識はどうしても薄くなる。「原発」の問題は、正にこの典型かもしれない。将来の人々が生きる上で貴重な資産となる農山漁村等を活力のある企業等に解放することは一見良いことのように見えるが、結果的に後代の人が困るほどに毀損することはあり得る。

私は、この太陽系の地球の価値を少なくとも減ずることなく後世に継いで行くのは、現世を生きる我々の責任だと思う。そういう意味で「既得権優先」にも組みしたくはないが、地球資源(地下、海底等も含め)を守り伝える、あるいは価値を維持増大して後代につなぐという大きな「コンセンサス」は必要だと考える。経済成長のためには地球温暖化を防ぐための活動、あるいは感染症対策、環境対策といった後代や他国にも好ましい活動によって「GDPを稼ぐ」というコンセンサスこそ必要。この70年の展開からそろそろそういう「基本宣言」を考えてはどうか。

C. パフォーマンス大隆盛のトレンド

第3点に挙げたい。戦後の民主化により「表現の自由」が伸びやかに発揮されるにつれ、マスコミが大きく展開、ポピュリズム隆盛の70年だった。しかし、どうも最近の実態を見ると相当おかしくなりつつあるように思う。テレビの画面で突如号泣する県会議員さん、耳が聴こえない天才音楽家が実は?夢のスタップ細胞もう100回作りました等々……ニセもの、「だまし」等の大氾濫。そして、巷では「オレオレ詐欺」等止むこと知らず。政治や政策運営でもパフォーマンスや狡猾なほどの智恵が重要に。少々厳し目に言えば、世の中全体が、見せかけやだまし打ちの流行る方向へ進んでいる。

D. 「財政」は破綻方向へ進行

A~Cへのトレンドが進めば、結局「財政」に 大きくシワが行く。この「財政問題」、民主主義 国にはほぼ共通した悩みのようだ。「選挙」は、 民衆に対し「人気取り、機嫌取り」の競争となる。 増税等の負担増になる政策は極力避け、先送りす る方向へ。気がついて見ると、財政のバランスは ひどい状況となって行く。破綻近くなれば庶民が 最も困る。

そして、この財政問題、結局若い世代やその先の後代への負担のツケ回しという大問題につながる。「今の世代」が生きるためという意味で、A、Bと全く同質の問題だ。若い世代や後代にツケ回しすればするほど、若い人たちの希望を奪い取り、結婚、出産など前向きのマインドは低下する。厳しく苦しくても、この国の財政展望なくして、成長政策など考えられない。民主主義70年の節目においてこそ、これらの「負」の問題を、国民が広く共有し、「意識」することがきわめて重要である。民主主義の弱点をむしろほじくり返し、これをあらゆる知恵を集め解決して行くことこそ、「民主主義を救う道」につながる。新渡戸稲造なら、そう見るのではないか。

去る1月29日に閉幕した世界経済フォーラム・ ダボス会議、いわゆる「ダボス会議」は、新聞の 見出しで「世界を覆う危機、焦燥と無策と」、「民 主主義に試練」とある。

私は、A~Dのうち、Dの「財政」をめぐっては、たしか平成24年の夏、民主党政権下ではあったが、自公民3党合意があり、一応一体改革の道筋のベースを敷いたことを重く見たい。それによって民主党は壊滅的な打撃を受けたが、あのようなことができたことをもって、未だ民主主義には望みがあるのだと考えている。

(2) デフレの真因は何なのか?

私は、以上(1)のA~Dが、戦後70年積もり 積もって、その上、小泉内閣あたりから強まった 「構造改革」への畏れも加わり、老人から若者に いたる各層の人々に『得体の知れぬ将来不安』が この国を覆いはじめていると思う。この『得体の 知れない将来不安』は、消費や投資に反映されて 行く。とくに全年齢層にまたがるという意味で「消 費」の萎縮は最もしぶとい!高齢者は今まで何と か生きてきたが、「これから先、酷い時代が来る」 と、「少しでも支出を抑え、旅行等も我慢して」 となるし、若い人たちも終身雇用も危うくなる構 造改革や海外からの攻めも考え、いつまで「雇用 されるか不安、結婚や恋愛も先送り」となる。ど こかの調査で、「恋愛感情のうすれた若者が増えている」とか。

そうした状況が底流を大きく流れての「デフレ」であれば、これまでの景気循環の中の「デフレ」とはかなり異なるものと思う。「少子化、人口減」とのスパイラルもあり、基調を相当変えない限り、まだまだしぶとく続くのでは?

最近の自公政権、「アベノミクス」の旗のもと、全ゆる努力を注入しがんばっている。10年、15年あるいはそれ以上にもわたる「デフレ」からの脱出のため、先ずは金融緩和を「追加」も含めて行い、さらに成長戦略へ岩盤くずしとばかりに農、医などの世界にも切り込みつつある。私は、焦っての対応のあまり将来世代の生きる基盤となる日本の農山漁村まで壊滅させてしまうのではないかと秘かに恐れる。

景気の実感には、その経済社会で暮らしていって、新渡戸稲造もいわれるように(後述)、「生きていてよかった」と実感するような「好感」つまり人々のマインドあるいは精神的要素が一層重要となって行く。前述の遠友夜学校の回顧にあるように、貧しい日々の暮らしに疲れ切っているはずの先生も生徒も、遠友の「校門」を見ると歩きが速まる「帯電体」とでもいうような不思議な力を感じたという。現代は、人それぞれであろうが、校門や会社のビルを見た途端、足がすくみ、「マイナスの帯電体」が流れ勝ちとなるのを恐れる。

3 「これから」を考える~札幌遠友夜学校精 神に学ぶべきこと~

(1) 新渡戸稲造は「経済」をどう見ていたか?

1(2)の遠友夜学校の説明の際紹介した、新渡戸稲造の愛弟子の一人石塚喜明教授(故人、内村、新渡戸、宮部の3巨人の薫陶を直接受けた最後の学徒)の遺作によると、「……私は、新渡戸稲造先生から尊い教えを受けた。その一つは、先生の経済学に関する講演であった。先生は、『「経済」は、英語でエコノミーと言うが、これはイケメニアという言葉から来ている。これは、今日でいえば Habitable world という意味である。即ち、経済とは庶民がこの世に生まれて良かった、楽しい思いをしたと思って死ねる世界を作ることである。そのためには、経済にHumanism、すなわち倫理性が伴わなければならない』ということを説明して下さった。……自由主義経済の欠点は、弱

肉強食、資本集中の2点である。これらを救うのは、新渡戸先生が説かれたように、自由主義経済に倫理性、人生哲学の基本思想を導入する以外に方法はないと思う。すなわち、新渡戸先生の根本哲学に帰ることである。」(石塚喜明著『日本農業・アジアの農業』北海道大学図書刊行会)そして、先生はこれを米国のリンカーン大統領の就任演説の一部から引用しておられる。(With malice toward none, with charity for all.)

経済とは、庶民がこの世に生まれて良かったといって死ねる世界を作ること…そのためには経済にHumanismを、と言われたこと、今の世界や日本の姿に示唆するもの大と見る。昨年9月に逝去された経済学者の宇沢弘文さんも、市場原理主義に怒り続け「心を持った経済学」を唱えられた。新渡戸稲造、石塚喜明先生らに重なり合う。

(2) 問題は、「今」そして「これから」を考える

最後に、私見に過ぎぬが、ひとつのアイディア を示したい。

- ●過ぎた過去よりこれから。(もう待ったな し!)
- ●ゆるぎない (ブレない) 前提条件の下で考え て行く。
 - 一特に、主役は若者。 次代、次々代を担う 若者に考えてもらうのが最高。

そして、考え方が固まったら順次実行へ(新渡戸精神「学問より実行」)。ローカルでもよい(例えば、北海道でも)、できることがあれば実行へ。

<共通的に前提とすべき条件、共有すべき問題意 識>

- 1. 徹底して私たちの後代の人たちが生きて行け る道筋を拓く方向をめざす。常に、「後代の ため、次代のため」を合言葉にすべし。
- 2. 新渡戸稲造の人生哲学や札幌遠友夜学校精神 に立脚した発想と行動へ。「犠牲の喜び」、「心 がかみ合う喜び」、「リンカーン精神」等々。
- 3. グローバルな交流やおつき合いから、後代に も良い活力を残す視点も望ましい。
- 4. 戦後70年の経済社会でできた弱肉強食等の「負」の側面(イジメ、不登校、引きこもり等々)をカバーする発想を出し、社会が暖かくなる方向をめざす。
- 5. 今ある産業、企業のパワー、マスメディア、

今展開中のインターネット等情報スキーム は、必要な制御は考えても、むしろそれらの 力をうまく活かす、ひき出す方向で考える。

6. 国や公共の「財政」に新しいツケを回すこと は極力避ける。

<具体的な取り組み方向について>

明日を担う若者の伸びやかなアイディア、発想力をひき出すことが肝要。少々幼稚でも良い。実現可能性至難でも良い。上記前提条件に沿って考えてもらう。

国などが考えて、トップダウン式で押しつけて 行くことは避けるべし。私の考えるところ、今の 閉塞状態を打ち破るのは良質なイノベーションを 積極的に興すことしかないか。

イノベーション 自然科学……水素革命、ミドリムシ、バイオマス科学等々、既に発展・展開中社会科学……地域興しも含め新たな展開が望まれる可能性を、かなり潜んでいるかも?

例示的なアイディア

- ① 不登校児のユニークな才能を見出し伸ばすフリー スクール等応援
- ② 視覚障害児など障害者の毎日の生活を応援するプロジェクト等々

(3)終わりに

経済学者T. ピケティ(仏)の『21世紀の資本』は、日本を含め世界に「格差」論議を引き興した。しかし、自由世界の経済に関わる企業、政府機関などの人々の視線はいま、資本主義の盟主米国経済を動かすFRB初の女性議長 J. イエレンの決断に集まっていると思う。金利をゼロ水準近くまで下げ、さらにお金をフルに市場に供給する緩和政策をとりつつある「米日欧」のうち経済に勢いのある米国が、まずは緩和の「異常さ」を取り除き「正常」に近づける対策を、いつ、いかなる形で実施するか見守っている。経済の高度なことは分からないが、要するに日米欧とも、この上はもう高成長はのぞめぬが、低成長ながらもいかに持続させるか、「慎重運転中」である。

イエレン議長自ら講演で、米国経済も「格差問題」など色々テーマをかかえていますといっていたように、欧州の方も「移民」の問題や南欧の財政問題等をかかえ、日本も含めみんな苦闘中といえよう。「資本主義経済」も相当厳しいところに来ているのだ。さて、私たちの新渡戸稲造によ

れば、「経済」はイケメニアであり、"habitable world"であるという。庶民が「この世に生きていて良かった!」と思えるようなスキームをつくり、営むことであろう。「この世に生きていて良かった!」の人間としての実感を生み出すには当然、「心の面」あるいは「精神面」にもしっかり着目しつつ、無論そのためには、何より「平和」は守りつつ、次の代までつないで行かねばならないであろう。マイナスでなくプラスの「帯電体」を生むスキーム作りにも挑戦して行かねばなるまい。そう思った。「遠友夜学校精神」の出番は、むしろこれからなのかも知れない。

(公益財団法人 すこやか食生活協会参与)

参考文献

- (1) 札幌市教育委員会編、さっぽろ文庫18『遠 友夜学校』北海道新聞社、1981年。
- (2) 札幌遠友夜学校創立百年記念事業会編『思 い出の遠友夜学校』北海道新聞社、1995年。
- (3) 蝦名賢造『札幌農学校―クラークとその弟子達』図書出版社、1981年。
- (4) 蝦名賢造『札幌農学校―日本近代精神の源 流―』『札幌農学校』復刻刊行会(代表 斉藤昇三)、2011年。
- (5) 鳥居清治訳注『新渡戸稲造の手紙』北大図 書刊行会、昭和51年。

- (6)新渡戸稲造著、矢内原忠雄訳『武士道』岩波書店、1991年。
- (7)新渡戸稲造著、奈良本辰也訳『解説·武士道』 三笠書房、1993年。
- (8) 一般財団法人新渡戸基金『新渡戸稲造の世界』第23号、2014年。
- (9)新渡戸稲造『逆境を越えて行く者へ』実業 之日本社、2011年10月。
- (10) 財団法人札幌遠友夜学校学期報「遠友」第 9号、昭和6年11月。
- (11) 石塚喜明『日本の農業・アジアの農業』北海道大学図書刊行会、2004年3月。
- (12) 須田 洵『父須田政美の軌跡―その一生と 私たち』7-11、アイワード、平成12年2月。
- (13) 中條 猛『私の生い立ちと歩み』共同印刷、 44, 昭和61年3月。
- (14) 浜田宏一・安達誠司『世界が日本経済をうらやむ日』幻冬社、2015年2月。
- (15) 堤 未果『沈みゆく大国アメリカ』集英社、 2014年11月。
- (16) 八代尚宏 『反グローバリズムの克服』 新潮社、 2014年3月。
- (17) 小黒一正『財政危機の真相』NHK出版新書、 2014年12月。
- (18) 小田切徳美『農山村は消滅しない』2014年 12月。

札幌遠友夜学校創立120周年記念作文・論文コンクール 優秀賞論文

新渡戸稲造の『武士道』と札幌遠友夜学校に学ぶ

谷口 稔

はじめに

遠友夜学校が開学120周年を迎えた。世界にも 稀なこの学校の軌跡を後世に残しておきたいと思 うのは関係者ばかりではないであろう。私は1年 間公立高校で教鞭をとり、その後31年間、新渡戸 稲造の教えを受けた河井道が建てた女子校に勤務 してきたが、遠友夜学校は日本全体が共有すべき 精神的徳目を備えていたと思われる。現代のよう に受験勉強に傾斜した学校教育、学歴だけで人を 判断する傾向のある社会の中で、その人の人格そ のものが大切であるという教えはもっと見直され るべきであろう。自分に自信が持てず、自らの能 力に気づいていない、また開花させようとしな い生徒たちにどのように接したらよいのかという ことに悩んでいる教師は多い。なぜ、遠友夜学校 の生徒たちは、自分の置かれた境遇にも拘わらず、 目を輝かせながら学校生活を送ったのであろうか。 もし今、新渡戸先生が生きておられたら、現代の 教育にどのように対処されるか、そのようなこと に思いを馳せながら、この論文を書いてみたい。

新渡戸稲造の書いた『武士道』と遠友夜学校、 一見、何の関係もないかのように思われるが、私 は2つの点で共通点があると考えている。一つは、 デモクラシーの思想である。新渡戸稲造はこれを 平民道と訳した。(1) 武士階級だけの規範であった 武士道は、その階級の消滅と共にその受け皿を失 うが、それが一般大衆に広がっていき、平民道へ と移行していく。学問も、もはや一部の特権階級 のものではなく、一般民衆にも開かれたものに なっていくべきであると新渡戸は考えていた。新 渡戸は決して、大学の中にだけとどまる人物では なかった。『実業之日本』をはじめとする一般の 雑誌にも寄稿し、平易な言葉で人生の教訓を説く ことにも精力を傾けた。そういう行為は大学教授 としての権威が損なわれると世間から言われた が、新渡戸はそのような批判をものともしなかっ た。そこには、新渡戸流の確固たる考えがあった のである。

もう一つは、愛に基づく自己犠牲の精神である。 封建時代、臣下は主君に忠実に仕えた。そこには 自分を犠牲にしても主君をたてるという精神があ り、そのことが、社会を支えることにつながった。 それと同様、遠友夜学校にも犠牲の精神が満ちて いた。教える先生は学生であったが、自分の勉強 時間を犠牲にして無給で若き生徒のために尽くし た。教えられた生徒たちも、自分のできることは 学校に貢献した。大工の生徒は学校の修理を率先 して行い、女子生徒たちは袋貼りなどの勤労奉仕 を行った。人間は他者の為に何ができるかを考え て人生を送ることで、はじめてその人も生かされ るということを新渡戸は教えようとした。そうい う意味で『武士道』と遠友夜学校は不思議な線で 結ばれているように思われる。

以下、『武士道』と遠友夜学校について、私なりに考えていることを述べてみたいと思う。

1. 『武士道』

『武士道』は、1900年、新渡戸稲造が37歳の時に、病気療養中のアメリカにおいて英文で出版された。『武士道』を書いた動機として次の3点があげられる。第1は、ドイツ留学中、ベルギーの大学教授ド・ラヴレー氏から「宗教教育のない日

本で、どのようにして道徳教育を授けているので すか」と問われ、当惑したことである。新渡戸は この時25歳、ド・ラヴレー氏は65歳、新渡戸が積 極的にアポイントをとり、留学先のドイツのハレ からベルギーのリエージュまで出かけて行って教 えを受けた。(2)機会を逃すことなく、自らヨーロッ パの知性に接していこうという姿勢には学ばさせ られるものがある。第2は、日本人が好戦的・野 蛮な国民ではなく、礼儀を備えた文明国であるこ とを立証したかったという点がある。新渡戸が生 まれた1862年に生麦事件が起こっている。英国人 をはじめ、被害を受けた外国人は、日本人は大き い刀で他人を刺し、小さい刀で自分を刺す(切腹) と考え、その悪評が海外に広がっていた。この点 に関しては、『武士道』の13章で、野蛮さの象徴 と見られた刀は超一流の芸術品であり、武士は そう簡単には刀を抜かないものであると述べてい る。また、12章には、切腹は、武士が過ちを詫び、 不名誉を免れるための制度であり、死をもって複 雑な問題を解決する場合もあったことを指摘して いる。第3は、20世紀に入ろうとしていた当時は、 西欧的合理主義の横行した時代で、新渡戸は日本 の精神までもが西洋化していくことを危惧してい た。そういう時代背景の中で、日本古来の武士道 に着目し、日本がさらに向上していくことを願っ ていたという点がある。これは、武士道がキリス ト教へと受け継がれていくこと、また、平民道と いう広がりを見せる重要なテーマであるので、こ こからはこの第3の動機を中心に、述べてみたい と思う。

武士道は、武士が日常生活において守るべき道であり、武士という高い身分に伴う義務(ノブレス・オブリージュ)であった。支配層であった武士は、国全体の道徳規範に対する責務を担っていた。その武士が守るべき武士道には、仏教、神道、儒教という東洋思想のみならず、あらゆる思想が流れ込んでいると新渡戸は言う。仏教思想からは、運命に任すという平静なる感覚、また、災禍に直面してのストイックな沈着がある。神道からは祖先に対する尊敬、親に対する孝行など、武士がおごり高ぶらないような教えが入り込んでいる。しかし、何よりも武士道に影響を与えたのは儒教である。儒教が、江戸時代の武士の行動規範の中枢を担っていたのは疑いのないところである。

『武士道』の3章から、各徳目の説明に入って いるが、新渡戸はまず、義から始めている。孟子 は「義は人の路なり」と唱え、聖書にも「我は失せし者の、見いださるべき義の道なり」とある。 義から始めたのは、東洋道徳、西洋道徳、共に義がなければ社会は存立しえないからであろう。新渡戸は、孟子が人民主義的理論を展開したことを2章で述べているが、孟子が重要視したのは、仁と義であった。義にウエイトを置く孟子には、人民のためにならない王朝を倒すのは天も認めるところであるという易姓革命の思想があった。この点に私はジョン・ロックの抵抗権の思想との連関性を感じるのであるが、新渡戸の思想にも一般民衆がその終着点としてあったに違いない。

義を支えるものとして、仁・智・勇がある。こ の3つは武士道の骨組を支えた鼎足で、義なる社 会を維持させるための不可欠の徳目である。この 義なる社会との関連で、現代では何が問題視され ているのか、それは、貧富の格差が広がっている ことである。アメリカでは、上位の1%の富裕層 がアメリカ全体の富の約半分近くを所有している という状況にある。日本はそこまではいっていな いが、同じような方向へと進んでいることは間違 いない。この格差社会に対する不満が社会に広が り、それが移民問題と絡むと、テロなどを誘発し てしまう危険性がある。義なる社会について、今 まさに真剣な議論がなされる必要があるであろ う。ピケティ氏の『21世紀の資本』が広く読まれ ている背景には、現代の格差社会という矛盾に、 多くの人々が疑問を持ち、その根源を探りたいと いう欲求が見受けられる。

7章には武士の倫理を支える根本的なものとし て誠をあげている。日本は古代から、清き明き心 (清明心)が大切にされてきた。古事記や日本書 紀にその語が見られるが、日本という農村共同体 においては、川の水のように透明で、太陽のよう に明るい心、つまり、共同体に対して何らうしろ めたい心がないことがその集団に入ることができ る条件であった。その清明心が後世、誠という文 字に影響を与えていく。武士には虚言が許されな い、言ったことは必ず守らなければならないとい う言と成の合成である誠という文字は、それだけ 重みを持った語である。次に、仁と誠が礼を支え るという点においてであるが、孔子は内面的価値 を仁に置き、それが外部に現れたものを礼と考え た。その礼が虚礼に終わらないためには、どうし てもそのベースに誠が必要なのである。

そして、義と礼が支えるものが忠である。忠と

いう概念は、西洋の騎士道にも存在するが、人倫 の最高位に置いたのは日本人のみであると新渡戸 は言う。武士にとって、何よりもその背後にある名 誉を求める心、そのことが武士道の中核であった。 名誉は武士が最も強く希求したもので、名誉が得 られるならば、生命さえ安価であった。忠に関し ては、単に主君に対しての追従だけでなく、主君 に対する諫言も忠の持つ意味に含まれた。つまり、 日本人の忠は奴隷道徳としての忠ではなく、封建 領主に諫言をしても正しき道に戻らせる、そうい う含みを持った忠であった。新渡戸はここに人間 としての道が毅然とした形で日本にあることを示 そうとしたと思われる。そして、その道は、西洋 のキリスト教道徳とそれほど遠くはなく、キリスト 教が許されていない日本社会においても、高い倫 理規範が守られていたと主張したかったのではな いだろうか。そして、キリスト教が導入されるこ とによって、日本文化がより一層、花開く可能性 があるということを強調したかったと思われる。

新渡戸は明言を避けているが、忠の対象が封建君主から将来的には神になることを願っていたと思われる。戦後、来日したエミール・ブルンナーは次のように述べている。「日本人は、その性格の中に忠義心という徳性を持っております。……今や日本人には、新しい忠誠の対象が必要です。それは宇宙の主以外のものではありえません。かかる忠誠には、偏狭な国家主義に陥る危険はありません。日本人は偏狭な国家主義がどのような結末を生むかを身にしみて味わってこられたはずです。新しい日本は、その偉大なる心をまことの主に捧げるのでなければなりません」(3)

14章には女性の教育と地位について書かれている。女子がその夫、家族のために身を捨てるは、男子が主君のために身を捨てるのと同様に、自発的に見事になされた。自己犠牲―およそ、これがなくては人生の謎は解けないーは、男子の忠義におけると同様、女子の家庭生活の基調であった。女子が男子の奴隷でなかったことは、彼女の夫が封建君主の奴隷でなかったことと同様である。女子の果たした役割は内助であった。女子は男子のために己を捨てたことにより、男子は主君のために己を捨てることが可能となり、主君はこれによって天に従うことができたのだった。ここを読むと、自己犠牲という言葉が武士道を理解するキーワードになっていることに気づく。

15章から17章の終わりの3章はきわめて重要な

章である。15章は、武士道の徳目が民衆へと広が るということを次のように表現している。「山に 太陽が当ると、まず最高峰の頂を紅に染め、それ から漸次、その光を下に投ずるがごとく、まず、 武士階級を照らした倫理体系は時を経るに従い、 大衆へと広がっていく」という美しい文章がある。 「花は桜木、人は武士とうたった時代は過ぎ去っ た。武士を理想、あるいは標準とする道徳もこれ また時世遅れであろう。それよりは、民を根拠と し標準とし、これに重きを置いて政治も道徳も行 う時代が今日まさに到来した。ゆえに、武に対し て平和、士に対して民と、人の考えがもっと広く、 かつ穏やかになりつつあることを察すれば、今後 は武士道よりも平民道を主張することこそ、時を得 たものと思う」と後に新渡戸は記している。(4)武士 階級の消滅と共に武士道を担う層は日本から消え た。1875年の廃刀令をもって刀の携行を禁止され、 旧時代は葬送されたのである。それでは、武士道 の将来はどうなるのか。最終章の17章「武士道の 将来」で次のように書かれている。「日本人は、 拡大された人生観を持つこと、平民道を追求する こと、他国と仲よくやっていくために国際的視点 を持つこと、そして、臣民からシチズンになり、 メンになっていくこと、平和を希求することが求 められている。」臣民とはまだ士農工商の身分制 度があった封建制の時代の民のことであり、選挙 権を獲得し始めたシチズンから、人格をお互いに 尊重し合い、自由に発言し得るメンの社会へと人 間社会は進歩していくと新渡戸は考えていた。そ ういう意味で上記の文章は、将来を見据えたもの であったといえる。もはや武士道に戦いを見るの ではなく、その延長線上に平和を夢見た新渡戸で あった。『武士道』の最後はこのように結んでいる。

「武士道は、独立した倫理の掟としては消えるかもしれない。しかし、その力は、この地上から滅び去ることはないだろう。武人の勇気や名誉の教訓は破壊されるかもしれない。しかし、その光と栄誉はその廃墟を越えて長く生き延びるだろう。その象徴とする花のように、四方からの風に散った後も、人生を豊かにする香りで、人類を祝福するだろう。」

新渡戸は、武士道の消滅を覚悟していた。しかし、消滅してはならない光をその武士道から汲み取り、次の世代にもっと幅広い民衆によって受け継がれるものとなって、平民道(デモクラシー)へと流れていくと考えていた。これは単に政治的

現象ではなく、「万民挙げて上下を論ぜず、男女の区別なく、職業のなんたるかを問わず、教育才能をも論ぜず、相互の人格を尊重する態度、これがあってはじめてデモクラシーの意義を理解することができる」と新渡戸は述べている。⁽⁵⁾ 教育の面では、その実践として、遠友夜学校を設立したが、遠友夜学校の精神には、『武士道』の自己犠牲の精神、デモクラシーの思想が流れていると思う。以下、遠友夜学校について論じてみたい。

2. 遠友夜学校

(1) 若き頃からの夢だった遠友夜学校

遠友夜学校について1ページを割いて掲載している小学校の教科書がある。(6) 小学校の学習指導要領にないことを載せていることに、教科書会社の熱意のようなものを感じる。私の娘が小学生だった時もこの教科書を使っていたが、小学校の先生は「遠友夜学校」についての知識がないのか、全く触れることがなかったという。たとえ、教科書に掲載されていても、情熱を持って語ってくれる教師がいなければ、新渡戸稲造の精神は次の世代に伝わっていかないであろう。

新渡戸は、札幌農学校卒業後、開拓使として北海道の生振に農家指導に出かけた。そこで生活が安定せず、すさんだ生活をしている農民の実態に接し、彼らを貧窮から救うことが最大の課題であることを悟った。その後、進歩したアメリカ社会を見て、その思いはますます強まり、20代のアメリカ留学中に、次のような構想を抱くようになる。

- (1) 老人あるいは成人を対象とし、講義は日本 語をもって歴史、経済学、農学及び自然科 学を学ぶ学校
- (2) 専門学校や大学の入学を希望しても予備校 に正規に出席できない青少年に対する学校
- (3) 貧しい両親を持った、粗野な子どもたちや 日雇い労働者などの子弟に対する夜学校 で、日本語の初歩、英語少々、算数を教える。 もし、これらの学校に女子部を併設するな らば、刺繍、裁縫、編み物、英語及び国文 学の勉強をする学校

新渡戸は、札幌を学園都市にする構想を抱いており、エディンバラのような都市に育てることが夢であった。アメリカ留学中にこのような野望ともいうべき夢を抱き、(3)に関しては遠友夜学校を開設した。ここに「学問より実行」という新

渡戸の実行力を見る思いがする。

(2) 文盲をなくせというスローガン

遠友夜学校が創立された当時、北海道の小学校 の就学率は、男子が56%、女子が34%であった。 特に女子の就学率が低く、3人に2人が小学校に 行っていないという計算になる。小学校に行かな いと、字が読めない、書けないということが起こっ てくる。字が読めないと新聞が読めない、本も読 めないということになり、人生で得られる知識が 極めて限られてくる。それがゆえに自暴自棄の生 活を送るとか、展望の開けない職業のまま人生を 終わるということになりかねない。遠友夜学校は、 まずは、字が読めるようになることを目指し、「文 盲をなくせ」というスローガンを掲げた。実は、 私の祖母(明治42年生まれ)も小学校に行ってい ない。弟や妹の面倒を見るために、また家庭の経 済的事情で小学校に行けなかった女性は多い。祖 母はカタカナだけは独学で覚えたが、漢字は読め なかった。若い頃、病院の事務員として働いてい たが、患者さんに薬を渡す時、漢字が読めなかっ たために間違った人に薬を渡そうとしたことが あったという。祖母は、九州で生まれ育ったが、 もし、札幌だったら、遠友夜学校で学ぶ機会があっ たかもしれない。祖母は私が12歳の時に60歳で他 界した。朝、新聞をポストからとってきて家族に 渡す姿を今でも覚えているが、祖母自身は読めな かったことを思うと胸が痛む。新渡戸稲造が札幌 遠友夜学校を開設し、救おうとしたのは、まずそ ういう人たちだったのではあるまいか。

遠友夜学校の尋常科は、下は7歳から上は34歳までの人がいたというのであるから、いかに幅広い年齢層のクラスであったかを感じさせる。不十分であった明治期から大正期の教育の中で、数多くの生徒の人生に希望の灯をともした続けた学校、それが遠友夜学校であった。

(3) 授業・カリキュラムについて

開設当時は、尋常科において、読書、作文、習字、算術、終身などを教え、高等科においては、地理、歴史、理科などの科目を設置していた。後に高等科を廃止し、中等科に発展していく。さらに、昭和3年に発足した「自由講座」は、毎月2回開かれ、普段の学科目に欠けている音楽、美術、文学などを置いた。「自由講座」は情操教育を補い、幅広い視野が持てるようにという意図で開講され

た。生徒の希望によってメニューを選択できるように、教師が各自得意とするテーマを用意しているところに、遠友夜学校の自由さ、発想の柔軟さを感じる。現在でも土曜講座として、月に2回、興味深いテーマを設定して生徒に選択させるようにしている学校もあるが、まさにそうした流れの先駆的教育が遠友夜学校だったのかもしれない。

(4) 教師は学生

遠友夜学校の先生は、札幌農学校、後の北海道 帝国大学の学生であった。学生は教える知識は あったが、教員としての資格は持っておらず、経 験もほとんどなかった。今の時代、もし学校や塾 の先生が学生ばかりで占められていたら、親たち はどう思うであろうか。しかし、遠友夜学校の生 徒たちは学生の先生を尊敬していた。また、先生 の方も、かけがえのない体験をさせてもらったと 感謝している。私も学生時代、家庭教師や塾の教 師をした経験があるが、教師という立場に立つこ とによって得られるものがずいぶんあったことに 気づく。ある学生は、次のように述懐している。

「遠友夜学校の思い出は、貧しい子どもたちに教え与えたというよりは、この仕事から学び受け取った方がはるかに多かったような気がする。そして、この短かかった経験を、その後の30年の人生行路にしばしば思い返して、自らの力づけとした」と述べており、自分は受取超過の先生であったと回顧している。(7)

一方、生徒だった人の思い出にこういう文章が ある。

「薄暗い校舎ではありましたが、教室の中はいつも張り切った学生服の先生と、向学心に燃えた生徒が一体となって熱心に学ぶその雰囲気は、本当に明るく楽しいものでした」(8)

当時の記録を読んでいて驚くのは、遠友夜学校の生徒が先生のことをずいぶん、ほめていることである。自分たちの先生ほど立派な方はいない。時間を割いて来てくださっているのだから、ご迷惑をおかけしてはいけないとか、一銭の報酬もないのに、遠い夜学校に来て教えてくださるとは、本当にありがたいことだと述べている。当時のエピソードとして、夜学校の先生が、食事にたまたま立ち寄った店で、「子どもがお世話になっています。お代は結構です」と言われたとか、乗車した電車の車掌に「弟が先生に教わっています」と言われ、切符を切らなかったという感動的な話も

残っている。

学生たちにとって、自分の勉強に加え、夜学校で教師をするということは大変な負担であったであろう。また、無給でということになると、アルバイトで学費を稼ぐ時間も削られることになるため、尊い犠牲の精神が必要となる。無報酬でいそめ、もとやってくる教師と、昼間の労働の疲れを癒す間もなく集う生徒らが「両者はこの学校に互いに引き合った。そして白熱を発し合ったのだ」と高倉新一郎は『札幌遠友夜学校』に書いている。遠い寒い道のりを歩いて毎晩、教えてやろうという心、教えてもらいたい、習いたいという心、こんな心が遠友魂というのであろう。かけがえのない体験をした両者にとって、限られた人生の中での出会いの場としては、遠友夜学校は最高の舞台であったのかもしれない。

(5) 男女共学

男女別学が普通だった当時、遠友夜学校が男女 共学だったことは、特筆すべきことである。実際、 男女別学にするのは教室のスペースの関係で無理 だったこともある。また、最初は女子を教える女 性の先生がおらず、男女別学にする困難さがあっ た。しかし、夜学校が拡大されていった大正時代 には、男女別学にしようと思えばできる、そうい う環境にあったと思われる。しかし、一貫して男 女共学を続けたことに、私は教育的意味を感じる。 年齢、職業が違い、男女のバラエティに富む生徒 同士が交流することで学びの場が広がると新渡戸 は考えたのであろう。共学によって何となく柔ら かい雰囲気が漂い、各クラスで今日のホームルー ムのような活動も自治的に行われたという。ま た、男女間で学力差をつけないで教えるという点 も重要であった。旧制中学と女学校では、使用し ている教科書が違うということは当時よくあるこ とであった。女子は男子ほど教育の重要性が重ん じられず、教育水準も1ランク下で可という時代 であった。また、女性には上級学校へと続く道が 限りなく狭められていた。しかし、遠友夜学校で の英語の教本は、当時の男子中学校で用いていた ニュークラウンリーダーだった。男女差を設けな いで教育したことに、新渡戸の平等観を感じる。

現代、男女共学が普通になっている中、男子校、 女子校が存在している。私は女子校に勤める前、 公立の男女共学の高校に1年だけ勤めた経験があ る。その時、こういう体験をした。私は教室で、 ある女生徒を叱った。宿題をやってこなかったからか何か理由ははっきりとは覚えていないが、叱られる理由はその女生徒にあった。しかし、その生徒は私に逆恨みした。理由は男の子の前で叱ったからであった。その点、女子校は、どこで叱ろうと、逆恨みされる心配はない。また、ものなこととして、女子にとって必要な知識、う百を全面に出して教育することができるという。を考えている。しかし男子校、女子校にもそれぞれメリットは存在する。中学や高校という人生のある限られた時期は、男子校、女子校という場で教育することの意味は少なからずあるであろう。

男女共学だと生徒同士の恋愛などが生じたのではないかと危惧されるが、その点での問題はなかったようである。むしろ、遠友の先生たちが心配したのは、女子生徒の男性化であった。⁽⁹⁾ あるとき、放課後、教室が騒がしいので、担当の教師が行ってみると、男子生徒と女子生徒が相撲をとっていたという。女子生徒が、男子生徒に馬鹿にされたのが口惜しいというので、相撲で勝負をつけようということになったらしい。このケースはきわめて特異な例であろうが、こういうエピソードは、驚きと笑いが混ざり合った感情を抱かせる。当時の教室での雰囲気を伝えるものとして貴重なエピソードである。

(6)特別活動で思うこと

遠友夜学校は勉強を教えるだけではなく、特別 活動にも力を入れた。いや、むしろ特別活動の方 に力を注いだといった方があたっているかもしれ ない。春は運動会、夏は海水浴、秋は登山、学芸 会、お正月はカルタ会などがあり、また、毎月、 合唱の練習が行われ、弁論部などのクラブ活動も なされていたという。こういう行事は、人間性の 陶冶には欠かすことのできないものであり、また、 社会に溶け込む訓練にもなるであろう。私の勤務 していた学校では、合唱コンクールでよく盛り上 がっていた。一つの行事を行うにはさまざまな問 題をクリアしていく必要がある。合唱コンクール では、指揮者と伴奏者がリードし、協力してくれ る生徒がいて練習は成り立つのである。うまく いった時にはクラスの団結は増すが、失敗した時 は、しこりが残る。それを何とかこなしていくこ とで、集団生活を学び、人間性も陶冶されるので ある。遠友夜学校にはそういう面が多々あったと

思われる。この点、現代の教育は、受験に関係のないことは、しないで欲しいという親のニーズもあり、特別活動には制限がかかる傾向にある。しかし、どんどん特別活動が減ることによって、学生時代にしかできない貴重な体験をせずに社会に出ていくことになる。これは、後の人生を狭めることにならないだろうか。学校を卒業して思い出すことというのは、普段の授業よりも特別活動であることの方が多い。そういう体験を積ませない教育は、偏った人間性を形成してしまう危険性をはらんでいると思われる。

「遠友夜学校」は「遠遊野学校」とも呼ばれるほど、自然の中に生徒を連れ出していった。定山渓への遠足、夏の海水浴、そして満月の夜の月見など、自然との触れ合いを大切にした。その点、北海道という地が自然環境に富んでいるということで、人格の陶冶にプラスに左右したと思われる。新渡戸がクエーカー教徒で、自然の中に、Great Law(大いなる法則)を見出したことは知られているが、神を発見するという体験を生徒にもさせたいという願望があったのかもしれない。

また、生徒の自治組織として、男子はリンコルン会、女子は菫会という生徒組織を作っている。教室は男女共学であったが、この点は男女別学であった。リンコルン会では、リンカーンの伝記を最初に読んで、討論会など元気いっぱいに行った。女子は菫会という組織で、女性の指導者に講演をしてもらったり、雑巾を縫うなどの勤労奉仕もあり、女性ならではの活動であったと思われる。男子と女子に分けて、訓話を聞き、ディスカッションをさせることで生徒同士の絆はさらに深まったであろう。男女共学の学校で、男女が別々に学ぶ機会も与えられていたということは興味深い。

(7) 自己犠牲の精神

新渡戸稲造は死去する1年前、遠友夜学校を訪れ、次のような講演を行っている。⁽¹⁰⁾

「本校の始めて出来た時の心持ちを一口にいえば、犠牲というべきである。メリー家の孤児が金を貯めたのも敢て本校の為ではなかったかもしれないが、食べたいものも犠牲にして貯めたのだ。また、家内も2000円で着物を買えば立派なものが買えるのを学校の為だと思い、我慢して出した。また、此処においでの先生も外の事で時を過ごせば過ごせるのに皆様の為に何かお務めが出来るかと来てくださる。また、寄付を

せられる方々も額の如何を問わず、使い道がある金を出す世の中は美しい。自分一個の為のみでは世の中は存在しない。人の為と思えばこそ嬉しい。故にこの学校の関係者の心も考え、親達の意を考え、即ち遠友の意を考え、若い中にも学校の内でも自分の出来る事なら人の為にする、・・・・・ただ、本を読み、算術をするのが学校の仕事だと思わず、人格を養成し明るい気分の人を養う事が目的である。」ここに新渡戸稲造の教育のエッセンスが込められているように思われる。武士道と遠友夜学校の接点の一つは、実にこの犠牲の精神にあったと私は思う。

(8) 遠友夜学校が果たした役割

遠友の由来は、論語の「有朋自遠方来不亦楽乎」から来ている。⁽¹¹⁾ 名も言葉もわからぬ人が会って話してみると何となくわかる。名を知らず、国を知らずとも心が合えば友達である。人間の楽しみは何といっても気の合う人と会うことである。勉強したくても機会に恵まれない人たちが志を同じくして学校に集まり自発的に勉強するのは本当に楽しいことである。

新渡戸は、学校を始めるにあたり、先生を頼んだが、学問を出来る人のみを頼んだのではなかった。生徒と友達になれる、遠友になれる人、子どもをかわいがる人、人と会って明るい気持ちで親切にしてくれる人を先生に頼んだという。

新渡戸は学問とは、人格を高尚にすることを もって最上の目的とすべきと考えていた。学問と 人格は別と考える学者も多くいたので、新渡戸の 考え方は少数派だったのかもしれない。この人格 という視点をもった教育を遠友夜学校で展開した ことは特筆すべきことであった。

遠友で先生の経験を持つ近藤治義は次のように 述べている。⁽¹²⁾

「遠友夜学校の教育は、所謂「教育」という立場からいえば、軌道からそれていたのではなかろうか。「なんじ臣民、、、」式の教育勅語に則った国家主義の教育理念の枠の外にはみ出た極めて自由な人間教育に終始していたと思う。天賦の人間性を個性と環境に応じて自由に伸ばし育む教育、educationの字義が示すように、人がそれぞれに内包するものを引き出す教育、ペスタロッチ、フレーベルの流れに沿う理想の教育をズブの素人の大学生たちが試みたのである。教師は全て大学生であるから知識に関してはこの上なく優秀なもの

であったに違いないが、教育の技術方法に至っては無資格に等しかった。ただ、児童たちに教師の方から近づいて、彼らの友達になって、共に学びもするが、一緒に遊びもするといった方法をとった。――それだけのものであった。そうした先生らしくない先生に、肉親の親兄弟にもまさる親近感をもって、夜毎に職場からまたは家庭から、昼間学校に通うことの出来ない不幸な子ども達が急ぎ足にボロ校舎に集って来たのである。」

遠友夜学校は、昭和10年代に入り、生徒数が激減していった。理由は、義務教育の普及と資格のとれない遠友夜学校を避け、生徒が公立の夜間小学校、夜間中学校にシフトしていったからである。開戦後、戦局の逼迫とともに学徒動員が強行され、教師のいない夜学校は閉鎖同然となった。そこへ、軍事教練を拒否したという決定的要因が加わり、1944年、閉鎖を余儀なくされたのであった。

蝦名賢造は『札幌農学校』の中で遠友夜学校に ついて次のように述べている。

「新渡戸稲造夫妻の札幌に遺した、最も美しい、 高貴な遺産の一粒は、このささやかな札幌遠友夜 学校であった。それは新渡戸を含む札幌農学校全 体の教育精神そのものの体現ともいうべきもので あり、また逆に農学校全体にヒューマニズムの精 神を注入することにもなった。もし札幌に遠友夜 学校の一施設がなかったならば、当時無学のまま に一生を終わってしまったであろう数千の人材を 育成しうる機会は永久に与えられなかったであろ う。また、この夜学校があることによって、この 学校の教師として学生時代の重要な時間を、数百 人の札幌農学校生徒、そして北海道帝国大学学生 が取り組み、人生と社会に対する知識・経験を与 えられ、有用な人材として世に送り出されること になっていったのであった。これらの教師と子ど もたちを包容して実に半世紀にわたって、一貫し て脈々と流れるヒューマニズムの精神は、いかに、 この地域の教育の深層に注入されたことであろう カ。」(13)

(9) 現代の教育が遠友夜学校から学ぶべきもの

現代、教育を担っている者が遠友夜学校から学 ぶべき点は多い。遠友夜学校は、教育環境が十分 に整わなくても、また家庭環境に恵まれなくても、 ここまでできるという一つの見本を示してくれた ように思う。私見であるが、現代の教育が遠友夜 学校から学ぶべき点を3つほど指摘して、本稿を 閉じたい。

第1に、新渡戸稲造は、夜学校の先生を頼む時 に、生徒と友達になれる、遠友になれる人という ことを条件に置いていたという点である。教師と 生徒が友達というレベルでも交われるという点 は、相手の身になって考えることができるという 意味では最高であろう。勿論、教師と生徒は立場 が異なるので、ただの友達であってはいけないが、 上から威圧的に教えるのが教育ではないという点 は汲み取らねばならない。私自身、若い頃は、教 師は毅然としていないといけないという意識が強 く、上から目線で話すことが多かったが、だんだ ん年をとってくると、それぞれの家庭で抱えてい る問題も違うため、一概に言えないということが わかり、個別面談を重視するようになっていった。 学期中は生徒と面談し、夏休みは保護者と会って、 生徒の様子を時間をかけて話し合った。そういう ことを遠友夜学校の先生は普段からやっていたの である。この生徒と教師の関係の良さが、たとえ、 卒業できなくても遠友夜学校で学んだことを誇り とするというところにまで昇華させ、遠友夜学校 の光を生涯にわたって輝かせた原動力となったの であろう。

第2は、生徒に自主的に自分のできることをさ せて、授業などに参加させたことである。別の言 い方をすると、意図的に欠けをつくって、そこを 生徒に考えさせたことである。遠友夜学校で、あ る時、理科の実験で針金が必要であった。先生は 針金を買ってくるように生徒に頼んだ。生徒は 「買ったことありません」と答えた。すると先生 は「自分で考えて、どこで売っているか、太さ、 長さを見計らって買ってくるように」と言ったの である。つまり、授業で必要なものを買わせるこ とによって、授業の準備に参加させたのである。 現代の教育は、あまりにも整いすぎており、すべ てを学校が用意し、生徒はお客様である。このお 客様という立場からは自発性は出てこない。自発 的に勉強する生徒に変えさせるためには、ある種 の欠けが必要であろう。学校に全ての設備が整っ ていて、全てを教師がやってはダメである。私は、 社会科の教員であったが、グループ学習をしてい た時、必要な本が絶版で、東京都の図書館にはあ るということを知った。しかし、私の家からは遠 いところであったので、「誰か、この図書館に行っ て借りてきてくれないか」と頼み、数冊の本を分 担して、生徒たちが図書館に行ってくれたことが あった。また、外国人労働者について発表したいというグループには、コンビニかどこかで、外国人労働者にインタビューしてくることを提案したところ、生徒たちは喜んで自分の責務を果たした。問題が起きないように配慮しないといけないが、教師がすべてをしないこと、あえて、生徒に分担させた方が、逆に生徒にとって充実感が増す方向へと向かうことを知った。

最後に、遠友夜学校の教育は、人格を高めるということを目標にしたことである。これは、最も重要な事であった。学問をした人間が、人を欺いたり、怠惰な生活を送るというのは、新渡戸にとって考えられないことであった。学問の最大且つ最高の目的は人格を養うという点にあると新渡戸は考えていた。「いやしくも、人間がこの世にある以上、決して孤立していられるものではない。社会の一員である。即ち、何処までもソシアスとして智・情・意を兼ね備えた人として子弟を薫陶するようにありたい。」(14) この言葉に、新渡戸の最終的な教育に対する願いが込められているように思う。

新渡戸稲造、内村鑑三の教えを受けた人たちが、 戦後の教育基本法の骨子を作ったと言われる。新 渡戸の理想とする人格論が、教育基本法第1条に、 「教育は人格の完成を目指し」という文言として 盛り込まれたのである。現代の教師、親たちが、 人格ということに留意して子弟の教育を行うこと で、ずいぶん、教育環境は変わってくるであろう。 学歴主義がもたらす弊害、試験にさえ受かればよ いという勉強方法は、本来の学問から遠く離れて いる。学問の楽しさを生徒に教え、実際に読書を することによって、自らの力で知識を獲得する方 法を生徒は学ぶ必要がある。そうすると学問は楽 しいということがわかってくるであろう。また、 感話を書き、人前で自分の意見を述べることで、 書く力とスピーチの力を養うことができる。学ぶ 楽しさを通して、人と交わり、社交性を育てる、 そういうことを現代の教育は目指すべきではない だろうか。

現代の教育が直面している課題は多い。管理教育が進み、生徒の自発性に期待するという本来の道に戻るには相当な努力が必要であろう。しかし、明治期に開設された遠友夜学校は、物質的には恵まれない中、そういう教育を行っていたのである。それは、日本の教育の不十分な制度の隙間を埋め、希望の灯をともし続けた50年間であった。私は、

札幌遠友夜学校に、汲めども尽きない泉のような ものを感じる。

(元恵泉女学園中学・高等学校教諭 (1984年4月~ 2015年3月))

注:

- (1) 新渡戸稲造『新渡戸稲造全集』第4巻、教文館、1969年、540頁。
- (2) 藤井茂『続 新渡戸稲造75話』新渡戸基金、 2012年、46-48頁。
- (3) 中沢洽樹・川田殖『日本におけるブルンナー』 新教出版社、1974年、153-154頁。
- (4)新渡戸稲造『平民道』新渡戸基金、2004年、 4頁。
- (5) 前掲、17頁。
- (6)教科書『小学社会6年上』教育出版、2012年、 103頁。
- (7)『遠友夜学校』さっぽろ文庫18、北海道新聞社、1981年、204-205頁。
- (8) 前掲書、245頁。
- (9) 『思い出の遠友夜学校』北海道新聞社、1995 年、32頁。
- (10)『遠友夜学校』さっぽろ文庫18、北海道新聞社、1981年、277-278頁。
- (11) 前掲、275頁。
- (12) 前掲、211頁。
- (13) 蝦名賢造『札幌農学校』新評論、1991年、 285頁。
- (14)『遠友夜学校』さっぽろ文庫18、北海道新聞社、1981年、141頁。

<参考文献>

新渡戸稲造『新渡戸稲造全集』第1巻、教文館、 1969年。

新渡戸稲造『新渡戸稲造全集』第4巻、教文館、 1969年。

新渡戸稲造『新渡戸稲造全集』第12巻、教文館、 1969年。

奈良本辰也訳『武士道』三笠書房、2013年。 山本博文訳『武士道』ちくま新書、2010年。 佐藤全弘『日本のこころと武士道』教文館、2001年。 古屋安雄「武士道から平民道へ」『新渡戸稲造研究』 第13号、新渡戸基金、2004年。

札幌遠友夜学校記念館 設計、完成予想図、募金方法

設計者の言葉

札幌遠友夜学校記念館の設計で心がけたこと

ナオミ・ダーリング Architecture, LLC

新渡戸稲造の精神を伝える「札幌遠友夜学校記念館」の設計公募において、私のコンセプト案が選ばれたことは大変光栄です。私自身、米国と日本の二つの文化の中で育ったこともあり、いつも建築の仕事を通し太平洋をつなぎ、幾世代にもわたって人間の精神に活気を与えるような美しい空間をつくりたいと願ってきました。

「札幌遠友夜学校記念館」は小さな公園の一隅に建つ建物という立地条件です。それで、設計にあたっては、野心的なデザインは敢えて避け、視覚的にも身体的にも公園と一体となり、公園と会話するような心地よい建築をコンセプトの基本に置きました。

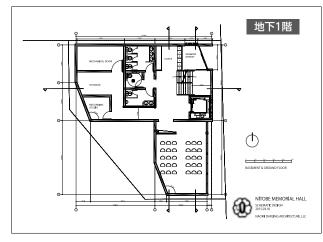
このコンセプトを形にする時は、簡潔で品格があり、現代的でありながらも『武士道』の精神を彷彿とさせる 潔さをめざしました。造形はいたってシンプル。アメリカの農家(ファームハウス)と日本の伝統的建築を想起 させるものです。

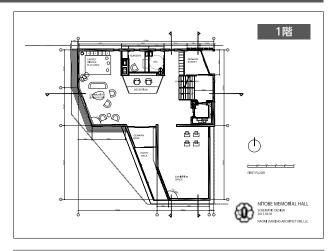
親切な動線と使いやすさに加え、私が最も大切にしたのは「光」の質です。新渡戸夫妻は敬虔なクエーカー教徒でした。クエーカー教徒は簡素な生活をモットーとし、その集会所に装飾はなく、「光」そのものが聖なる空間をつくっていたからです。

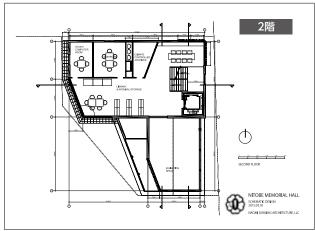
地球の未来を考える時、持続可能な社会(サスティナビリティ)の観点は重要です。この点、自然の光と風にまさるものはありません。南西のラウンジには暖かな午後の光を、一方、北東の学習/研究空間および展示空間には、静かな光を取り入れました。そして窓を開けば、札幌の気持ちのよい風が建物の中を抜けていくでしょう。

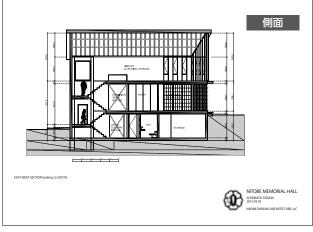
誰にでも開かれていた遠友夜学校の精神が今こそ受け継がれ、さまざまな活動が展開され、誰もが行きたくなる場所になることを祈っています。

設計図(地下1階、地上2階)









札幌遠友夜学校完成予想図



札幌遠友夜学校記念館 完成予想図 (1階 展示室とラウンジ)

建設基金募金方法

1) ゆうちょ銀行振込用紙がほしい方は裏表紙の事務所まで電話かメールでご請求下さい。

2)銀行からの送金の方はメールかファックスでお名前とご住所をこちらまでご連絡下さい。

3)銀行からのお振込先

*北洋銀行本店営業部 普通預金 口座番号:6695883

加入者名:「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」記念館建設口座

(略称 「キネンカンケンセツコウザ」)

*北海道銀行本店営業部 普通預金 口座番号:3141694

加入者名:「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 | 記念館建設口座

(略称 「記念館建設口座」)

*ゆうちょ銀行

(1) 同封の振込用紙を用いて

(2) ゆうちょ銀行 ATM での口座間送金 (無料) の場合

記号:19020 番号:3988211 加入者名: 遠友夜学校を考える会

編集後記

会報3号は昨年行われた札幌遠友夜学校創立120周年記念フォーラム講演概要と作文論文コンクールの優秀作品、記念館建設に向けた設計図と完成予想図、記念館での事業計画、また「考える会」に寄贈された写真史料のいくつかを掲載したく願い、カラー付き記念誌といたしました。ご笑覧下さり、忌憚のないご感想をお寄せ下さい。また会員、寄付募集にも積極的にご応答いただければ幸いです。お問い合わせは裏表紙奥付の事務所まで







<写真説明> (上から順に)

- ・遠友夜学校初期の校舎 『思い出の遠友夜学校』より
- ・新渡戸稲造萬里子両先生顕彰碑中央部
- ・中等部学芸会 演劇上演「夢を売る店」(昭和13年6月) (写真提供:梅野氏)
- ・札幌遠友夜学校記念館建築コンセプト設計公募展 (札幌駅前通地下歩行空間にて実施、平成26年5月)

「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」会報 第3号『記念誌』

発 行 一般社団法人

新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会

編 集 「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」 運営委員会

編集責任者兼発行人 代表理事 秋山 孝二

住 所 〒060-0054

札幌市中央区南4条東3丁目19番地

「一般社団法人

新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」 事務局 電話番号:011-612-3771 Fax:011-612-3380

Eメール:fwga3429@nifty.com

U R L: http://nitobe-enyu.org/

発行日 2015年6月27日

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリー

